

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年6月28日

【事業年度】 第58期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

【会社名】 株式会社島精機製作所

【英訳名】 SHIMA SEIKI MFG.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 島 三博

【本店の所在の場所】 和歌山県和歌山市坂田85番地

【電話番号】 (073)471 - 0511(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員経理財務部長 南木 隆

【最寄りの連絡場所】 和歌山県和歌山市坂田85番地

【電話番号】 (073)471 - 0511(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員経理財務部長 南木 隆

【縦覧に供する場所】 株式会社島精機製作所 東京支店
(東京都中央区日本橋二丁目8番6号 10階)

株式会社島精機製作所 西日本支店
(大阪市北区梅田一丁目11番4 - 1500号
大阪駅前第4ビル15階)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第54期	第55期	第56期	第57期	第58期
決算年月		2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高	(百万円)	48,354	49,582	62,432	71,858	51,352
経常利益	(百万円)	8,470	4,532	10,043	15,525	4,991
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)	3,645	3,271	7,198	11,279	3,835
包括利益	(百万円)	6,443	1,231	7,798	10,420	3,513
純資産額	(百万円)	98,179	98,293	104,879	123,491	121,166
総資産額	(百万円)	126,987	126,415	141,931	154,337	145,146
1株当たり純資産額	(円)	2,863.49	2,867.00	3,039.66	3,381.85	3,411.08
1株当たり当期純利益	(円)	106.54	95.61	209.97	316.82	105.62
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)			209.68		105.54
自己資本比率	(%)	77.2	77.6	73.8	80.0	83.5
自己資本利益率	(%)	3.8	3.3	7.1	9.9	3.1
株価収益率	(倍)	19.2	19.6	20.0	23.3	32.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,956	1,257	6,988	9,397	9,935
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2,287	2,350	1,241	4,843	872
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,966	1,776	2,470	1,731	6,540
現金及び現金同等物の 期末残高	(百万円)	13,164	9,752	18,286	24,223	26,849
従業員数	(名)	1,766	1,788	1,859	1,931	1,974

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 従業員数は、就業人員数を表示しております。
3 第54期(2015年3月期)及び第55期(2016年3月期)の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第57期(2018年3月期)の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第58期の期首から適用しており、第57期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (百万円)	40,455	42,940	52,160	61,038	39,352
経常利益 (百万円)	8,200	5,514	5,706	10,435	2,233
当期純利益 (百万円)	4,879	3,918	4,001	7,495	3,272
資本金 (百万円)	14,859	14,859	14,859	14,859	14,859
発行済株式総数 (千株)	36,600	36,600	36,600	36,600	36,600
純資産額 (百万円)	86,340	88,448	92,300	107,988	104,745
総資産額 (百万円)	111,247	114,044	128,201	135,628	126,552
1株当たり純資産額 (円)	2,517.92	2,579.60	2,675.11	2,957.62	2,949.07
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)	32.5 (15.0)	37.5 (15.0)	45.0 (20.0)	60.0 (25.0)	55.0 (30.0)
1株当たり当期純利益 (円)	142.61	114.52	116.72	210.53	90.12
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)			116.56		90.05
自己資本比率 (%)	77.4	77.4	72.0	79.6	82.8
自己資本利益率 (%)	5.8	4.5	4.4	7.5	3.1
株価収益率 (倍)	14.4	16.4	35.9	35.1	37.7
配当性向 (%)	22.8	32.7	38.6	28.5	61.0
従業員数 (名)	1,218	1,244	1,274	1,324	1,443
株主総利回り (%)	131.1	122.5	271.1	476.4	228.6
(比較指標: 配当込み TOPIX) (%)	(130.7)	(116.5)	(133.7)	(154.9)	(147.1)
最高株価 (円)	2,288	2,250	4,385	8,190	7,380
最低株価 (円)	1,525	1,557	1,676	3,590	2,821

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 従業員数は、就業人員数を表示しております。
3 第55期(2016年3月期)の1株当たり配当額37円50銭(1株当たり中間配当15円00銭)には、ホールゲームント発売20周年記念配当2円50銭を含んでおり、第56期(2017年3月期)の1株当たり配当額45円00銭(1株当たり中間配当20円00銭)には、創立55周年記念配当2円50銭を含んでおります。
4 第54期(2015年3月期)及び第55期(2016年3月期)の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第57期(2018年3月期)の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
5 最高株価及び最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。
6 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第58期の期首から適用しており、第57期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

年月	概要
1961年7月	和歌山市大泉寺丁に資本金100万円をもって三伸精機株式会社(現提出会社)を設立し、手袋編機用半自動装置の製造販売を開始。
1962年2月	和歌山市手平に本社及び本社工場を移転、商号を島精機株式会社に変更。
1962年3月	商号を株式会社島精機製作所に変更。
1964年12月	全自動手袋編機を開発。
1967年9月	全自動フルファッション衿編機の製造販売を開始し、横編機業界に進出。
1968年9月	業務拡張のため和歌山市坂田に本社及び本社工場を新設移転。
1970年2月	全自動シームレス手袋編機(SFG)を開発、製造販売を開始。
1971年6月	パリ開催のITMA展(国際繊維機械見本市)に全機種を出品、国際的な評価を受ける。
1973年6月	新潟県五泉市に新潟営業所(現 東日本支店)開設。
1975年9月	全自動シマトロニック・ジャカード手袋編機(SJG)を開発、独ライプチヒ展に出展しゴールドメダルを受賞する。
1978年3月	シマトロニック・ジャカード・コンピュータ制御横編機(SNC)を開発、横編機の新分野を開拓する。
1979年7月	和歌山市坂田にニットマックエンジニアリング株式会社(のちに連結子会社株式会社ニットマック)を設立。(2010年3月当社に吸収合併。)
1980年1月	和歌山市神前に株式会社シマファインプレス(現連結子会社)を設立。(1987年3月当社100%出資子会社となる。)
1981年7月	シマトロニックデザインシステム(SDS)の製造販売を開始。
1981年10月	ティーエスエム工業株式会社に50%を出資。(1987年10月当社100%出資子会社となる。2018年10月当社に吸収合併。)
1982年1月	ニットデザインセンター(現トータルデザインセンター)を発足。
1982年6月	大阪市北区に大阪支店(現 西日本支店)を開設。
1985年8月	イギリスミルトンキーンズ市で現地法人を買収し、シマセイキヨーロッパ(SHIMA SEIKI EUROPE LTD. 現連結子会社。2006年3月ダービー州に移転)とする。
1986年1月	台湾台北市に台北支店を開設。(2017年1月現連結子会社島精機(香港)有限公司の支店となる。)
1986年4月	アメリカニュージャージー州に現地法人シマセイキU.S.A.(SHIMA SEIKI U.S.A. INC. 現連結子会社)を設立。(2007年5月当社100%出資子会社となる。)
1987年5月	東京都港区に東京支店を開設。(2000年3月中央区日本橋に移転)
1987年10月	開発・生産・販売の一体化をはかるため、株式会社島アイデア・センター、神谷電子工業株式会社を吸収合併。
1989年4月	株式の額面金額変更のための合併。
1989年6月	第2世代のコンピュータ横編機シマトロニック・ジャカード・コンピュータ横編機(SESS)の製造販売を開始。
1990年12月	大阪証券取引所市場第二部に上場。新本社ビル竣工。
1992年2月	自動裁断機(PCAM)の製造販売を開始。
1992年5月	名古屋市中区に名古屋支店(現 西日本TSC名古屋)を開設。
1992年9月	大阪証券取引所市場第一部銘柄に指定。
1994年10月	大阪府泉大津市に泉州支店(現 西日本TSC泉州)を開設。
1995年11月	完全無縫製型コンピュータ横編機(SWG)の製造販売を開始。
1996年1月	東京証券取引所市場第一部に上場。
1997年10月	世界初のスライドニードルを搭載した多機能コンピュータ横編機(SWG FIRST)を開発。
1998年7月	東北シマセイキ販売株式会社を吸収合併し、山形営業所(現 東日本TSC山形)、福島営業所(現 東日本TSC福島)を開設。
2000年6月	IT機能を充実したALL in ONEコンセプトのデザインシステム(SDS ONE)を発売。
2001年3月	イタリアミラノにデザインセンターを開設。
2002年4月	創立40周年記念行事としてファッションショーを開催。
2005年4月	株式会社海南精密を連結子会社とする。
2005年12月	省エネ・省資源に配慮した最新鋭工場FA2号棟を竣工。
2006年7月	コストパフォーマンスを向上したコンピュータ横編機(SSG、SIG)を発表。
2006年7月	アメリカニューヨーク市にデザインセンターを開設。
2006年9月	連結子会社島精榮有限公司(香港)が販売代理店から事業を譲受ける。
2006年12月	SHIMA-ORSI S.P.A.(イタリア)の全持分の譲渡を受け連結子会社とする。

年月	概要
2007年3月	無縫製コンピュータ横編機及びデザインシステムを活用したニット製品の高度生産方式の開発により第53回大河内記念生産特賞を受賞。
2007年7月	島精榮榮(上海)貿易有限公司(現連結子会社 島精機(香港)有限公司の100%出資子会社)を設立し、連結子会社とする。
2007年9月	ミュンヘン開催のITMA2007に、生産効率を大幅に向上させたホールガーメント横編機、立体表現が可能となったデザインシステム(SDS ONE APEX)を出展。
2008年4月	東洋紡糸工業株式会社を設立、連結子会社とする。太田営業所(現 東京TSC太田)を開設。
2008年7月	上海開催のITMA ASIA + CITME 2008に、革新的なホールガーメント横編機の新機種(MACH2)を出展。
2008年11月	販売代理店の株式を取得して子会社としSHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.(当社連結子会社)、SHIMA SEIKI PORTUGAL LDA.(現子会社 SHIMA SEIKI PORTUGAL UNIPessoal LDA)に社名を変更する。
2009年4月	東莞島精榮貿易有限公司(現連結子会社 島精機(香港)有限公司の100%出資子会社)を連結子会社とするとともに、SHIMA SEIKI(THAILAND)CO.,LTD.(タイ)を設立、連結子会社とする。
2009年7月	連結子会社SHIMA-ORSI S.P.A.をSHIMA SEIKI ITALIA S.P.A.に社名変更する。
2010年1月	連結子会社島精榮榮有限公司を島精機(香港)有限公司に社名を変更する。
2010年1月	超ファインゲージで高品質なホールガーメントニットウエアの生産を実現したMACH2X153 18L、多色使いで繊細な柄表現を可能にしたMACH2SIGを発売。
2010年3月	連結子会社株式会社ニットマックを吸収合併する。
2010年10月	汎用機としての使いやすさと最新技術による生産性の向上、コンパクト化による省エネ対応を実現した戦略的コンピュータ横編機(SSR)を発表。
2011年9月	スペイン・バルセロナ開催のITMA2011に、世界初の21ゲージの成型編みが可能なコンピュータ横編機SWG-FIRST154を出展。
2012年1月	ホールガーメント横編機の専用組立て工場FA3号棟を竣工。
2012年2月	創立50周年を迎える。
2012年3月	編み幅が50インチのコンパクトなホールガーメント横編機MACH2X123を発表。
2012年3月	インターシャ編成技術の経験とノウハウを集結させたコンピュータ横編機(SIR123)を開発。
2012年6月	島精機(香港)有限公司がカンボジア支店を開設。
2012年8月	和歌山大学、和歌山県立医科大学との産業連携のもと、医療用三次元計測装置を開発。
2012年9月	炭素繊維、複合素材であるCFRP、GFRP等のプリプレグが裁断可能な自動裁断機P-CAM120Cを開発。
2012年11月	創立50周年記念イベントとして、ファッションショーを開催。
2013年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の市場統合に伴い、大阪証券取引所市場第一部は、東京証券取引所市場第一部に統合。
2013年10月	ホールガーメント横編機SWG-N2シリーズならびにコンピュータ横編機SRY123LP、SVR122を発表。
2014年4月	インク循環脱気システムを搭載したインクジェットプリンティングマシンSIP-160F3を開発。
2015年2月	世界初の可動型シンカー装置搭載の4枚ベッドのホールガーメント横編機MACH2XSを発表。
2015年11月	株式会社豊田自動織機と共同開発したデザインシステムAPEX-Tを発表。
2016年4月	株式会社SHIMAを連結子会社とする。
2016年9月	WEBサービス「staff(shima trend archive & forecast)」をスタートさせる。
2016年10月	非連結子会社の株式会社イノベーションファクトリーが株式会社ファーストリテイリングから出資(49%)を受ける。
2017年11月	創立55周年記念イベントとして、ファッションショーを開催。
2018年10月	連結子会社ティーエスエム工業株式会社を吸収合併する。

(注) 当社(登記上の設立年月日 1976年8月24日)は、株式会社島精機製作所(実質上の存続会社)の株式額面金額を変更するため、1989年4月1日を合併期日として、同社を吸収合併いたしました。合併前の当社は休業状態であり、以下特に記載のないかぎり、実質上の存続会社に関して記載しております。

3 【事業の内容】

当社の企業グループは、横編機、デザインシステム、手袋靴下編機の製造販売を主な事業内容とし、さらに各事業に関連する部品の製造販売等に加え、その他サービス等の事業活動を展開しております。

なお、製造・販売子会社は原則としてセグメントの全てを分担しており、当グループの事業に係わる位置づけは次のとおりであります。

〔横編機事業・デザインシステム関連事業・手袋靴下編機事業・その他〕

(製造)

横編機、デザインシステム、手袋靴下編機の製品及び部品は当社で製造しております。

また、製品の一部部品につきましては、連結子会社 株式会社シマファインプレス及び株式会社海南精密に製造を委託し、組立用部品として購入しております。

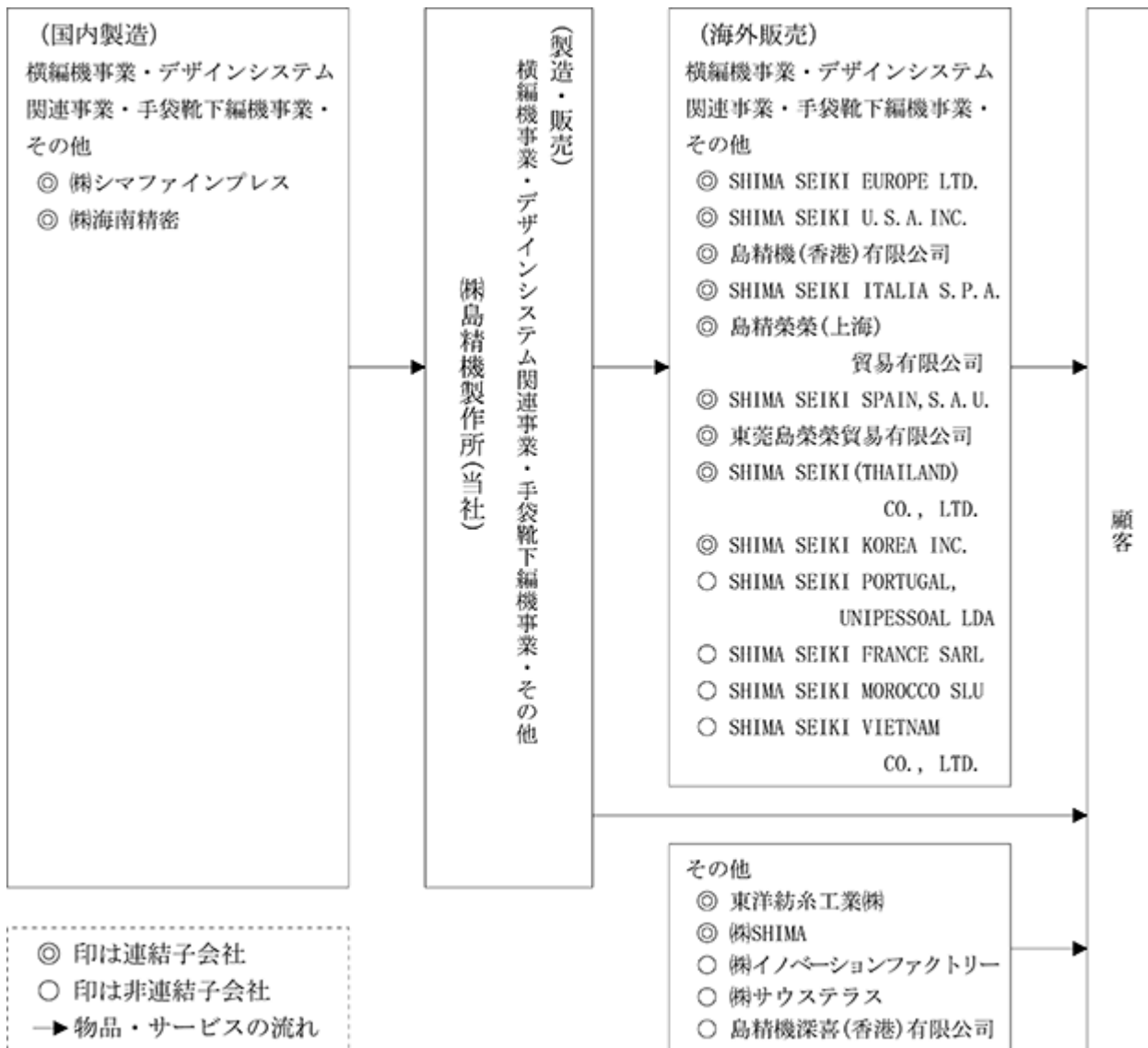
(販売)

国内販売及び海外販売は当社が需要者へ直接又は商社、代理店経由で販売しておりますが、海外販売の一部につきましては、連結子会社 SHIMA SEIKI EUROPE LTD.、SHIMA SEIKI U.S.A. INC.、島精機（香港）有限公司、SHIMA SEIKI ITALIA S.P.A.、島精榮榮（上海）貿易有限公司、SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.、東莞島榮榮貿易有限公司、SHIMA SEIKI (THAILAND) CO., LTD.、SHIMA SEIKI KOREA INC. 及び非連結子会社 SHIMA SEIKI PORTUGAL UNIPESOAL LDA、SHIMA SEIKI FRANCE SARL、SHIMA SEIKI MOROCCO SLU、SHIMA SEIKI VIETNAM CO., LTD. が販売を担当しております。

(その他)

東洋紡糸工業株式会社（繊維原料の製造、販売、輸出入）、株式会社SHIMA及び株式会社イノベーションファクトリー（繊維製品の製造、販売）、株式会社サウステラス（ホテル業）、島精機深喜（香港）有限公司（繊維製品の企画・販売）があります。

事業の系統図は次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合(%)	関係内容
(連結子会社) ㈱シマファインプレス (注)3	和歌山市	60	横編機事業 デザインシステム関連事業 手袋靴下編機事業 その他	100	当社製品の部品を製造しております。
㈱海南精密	和歌山県海南市	10	同上	100	当社製品の部品を製造しております。
東洋紡糸工業㈱	大阪府泉北郡 忠岡町	100	その他	100	材料を購入しております。
㈱SHIMA	和歌山市	80	その他	100	ニット製品を購入しております。
SHIMA SEIKI EUROPE LTD.	英国 ダービー州	千英ポンド 1,000	横編機事業 デザインシステム関連事業 手袋靴下編機事業 その他	100	当社製品を販売しております。
SHIMA SEIKI U.S.A. INC. (注)3	米国 ニュージャージー州	千米ドル 15,600	同上	100	当社製品を販売しております。 役員の兼任 1名
島精機(香港)有限公司 (注)3、5	中国 香港	百万香港ドル 1,290	同上	100	当社製品を販売しております。 役員の兼任 1名
SHIMA SEIKI ITALIA S.P.A.(注)3、5	イタリア ミラノ	千ユーロ 2,000	同上	100	当社製品を販売しております。
島精榮(上海)貿易有限 公司	中国 上海	千米ドル 2,100	同上	100 (100)	当社製品を販売しております。 役員の兼任 1名
SHIMA SEIKI SPAIN,S.A.U.	スペイン バルセロナ	千ユーロ 108	同上	100	当社製品を販売しております。
東莞島精榮貿易有限公司	中国 東莞	千米ドル 1,000	同上	100 (100)	当社製品を販売しております。
SHIMA SEIKI (THAILAND) CO., LTD. (注)4	タイ バンコク	千バーツ 4,000	同上	49 (49)	当社製品を販売しております。
SHIMA SEIKI KOREA INC.	韓国 ソウル	千韓国ウォン 1,000,000	同上	100	当社製品を販売しております。

(注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2 議決権の所有割合の()内は内書きで、間接所有割合であります。

3 特定子会社であります。

4 SHIMA SEIKI (THAILAND) CO., LTD. については持分は100分の50以下ですが、実質的に支配しているため、子会社としております。

5 島精機(香港)有限公司及びSHIMA SEIKI ITALIA S.P.A.については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。主要な損益情報等は次のとおりであります。

	島精機(香港) 有限公司	SHIMA SEIKI ITALIA S.P.A.
売上高	20,415 百万円	7,267 百万円
経常利益	1,272 百万円	381 百万円
当期純利益	1,110 百万円	285 百万円
純資産額	24,995 百万円	3,077 百万円
総資産額	30,738 百万円	10,200 百万円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2019年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
横編機事業	1,107
デザインシステム関連事業	123
手袋靴下編機事業	98
その他	233
全社(共通)	413
合計	1,974

(注) 従業員は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であります。

(2) 提出会社の状況

2019年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,443	42.91	19.74	6,110,614

セグメントの名称	従業員数(名)
横編機事業	791
デザインシステム関連事業	106
手袋靴下編機事業	70
その他	150
全社(共通)	326
合計	1,443

(注) 1 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であります。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社グループの労働組合は、日本労働組合総連合会 J A M大阪和歌山地区協議会に属し、組合員数は945名であります。なお、労使関係について特に記載すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「愛」「創造」「氣」を合言葉に「Ever Onward 限りなき前進」を掲げ、事業の持続的発展により、「世の中になくなくてはならない企業」になることを目指してまいります。

「愛」 私たちは、仕事を愛し、人を愛し、国や地域を愛し、
地球を愛することを通じて、人や環境にやさしい
「もの創り」を目指し、社会に貢献します。

「創造」 私たちは、高感度・高感性で創造力を発揮し、
世の中に無い魅力的なものを創り出すことを目指します。

「氣」 私たちは、何ごとにも、成し遂げる“氣”を持って挑戦し、
製品やサービスに魂を込め、未来を切り開いていきます。

そして、この経営理念の下、当社の持つ技術が世界中に波及し、魅力あるファッション製品の「もの創り」のスタンダードに昇華させ、また当社のコア・コンピタンスが、ファッション製品以外の業界にも貢献できる、新たな成長ステージを創造し、感性情報型企業へ進化していくことを、当社グループの10年後のビジョンとしています。

さらに当社グループは、当社株主に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつとして位置付け、事業の持続的発展を通じて、安定した配当を長期にわたって継続することを利益還元の基本方針とし、そのうえで、長期的視点に立った成長投資および今後の事業展開に備えた内部留保にもバランス良く配分を行ってまいります。

(2) 目標とする経営指標

創業から50余年を経た当社グループにおいて、中期経営計画を「次の50年」の企業成長の礎を築くための「成長を加速させる」フェーズとして位置づけております。

中期経営計画においては、顧客ニーズに応えるための積極的な投資を実施するとともに、さらなる業績の向上と財務の健全化を目指し、当社グループとして「売上高：650億円」「営業利益：100億円」「経常利益：100億円」「当期純利益：70億円」「ROE：5.3%」を2021年3月期の達成目標とし、より一層の企業価値の向上に努めてまいります。

(3) 経営環境および対処すべき課題

消費行動の変化やECビジネスへのシフト、当社顧客業界での更なる効率化経営の追求など、当社を取り巻く経営環境は加速度的に変化しています。

そうした世界的な変化の潮流の中、ビジネス機会を確実に掴むべく、当社グループでは「差別化戦略の推進と事業領域の拡大」と「将来の成長に向けた積極的な投資の強化」を中期経営計画のメインシナリオに掲げ、次の4つの成長戦略の推進により、中期経営目標の達成を目指してまいります。

・ 横編機事業の最強化

ホールガーメント横編機を核とした革新的なマーケティング手法の提案強化などにより、顧客満足度をさらに高め、コアビジネスである横編機事業をより一層強靱なものにする。

・ 独自性をもった事業範囲の拡大

ホールガーメント技術など当社独自の技術を活用し、非衣料市場への横編機事業の展開や自動裁断機事業の強化など、革新的な事業の創出、差別化戦略を推進する。

・ 収益構造の改革

アフターセールス強化などの収益源の多様化、営業キャッシュ・フローの改善など、事業・業務の抜本的な見直しにより、持続可能な収益源の確保と戦略的なコスト削減を進める。

・ 経営基盤の強化

創造力のある人材・多様性のある人材の採用・育成など、人材面を中心に、全般的な経営資源の整備を進めるとともに、CSRをさらに重視した経営体制を構築する。

2 【事業等のリスク】

当社グループは、事業展開においてリスク要因となり、経営成績、財政状態に影響を及ぼす可能性があると考えられる主な項目を以下のとおり認識しています。

当社グループではこれらのリスクの発生可能性を認識したうえで、その発生の回避および発生時の適切な対応に努めております。なお、記載内容のうち将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

特定の海外市場への依存

当社グループの海外売上比率は80%を超える水準で推移しており、なかでも中国やバングラデシュさらにASEAN諸国などを合わせたアジア市場での売上高は2分の1を超えています。当市場における他社横編メーカーとの競合、金融政策、税制の変更、他地域との貿易摩擦などの経済及び政治状況等の変化が受注減につながる懸念があり、当社グループの業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

為替レートの変動

当社グループは全世界に製品を販売しており、取引においては円貨以外に外国通貨建てで行われております。このため先物為替予約取引等によりリスクヘッジを行っておりますが、円高による外貨建債権の評価損の発生や価格競争力の低下により計画した販売活動を確実に実行できない場合があるため、急激な為替レートの変動は当社グループの業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

与信及び売上債権の回収リスク

世界販売戦略のなかで主要マーケットである中国及び欧州市場においては当社グループが直接、ユーザーに対する適正な与信管理を行い、債権の回収リスクと販売のバランスを図りながら総合的な海外営業戦略を実施しております。一方で、連結経営における的確な与信対応の重要性が一層高まり、ユーザーの業績や信用状態の変動及びバントリーリスクの顕在化が、当社グループの業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

知的財産保護戦略の課題

当社グループが持つ独自の技術とノウハウの一部は、特定の国、地域においては法令遵守意識の欠如等により知的財産権による完全な保護が不可能または限定的にしか保護されない状況にあります。そのため第三者が当社グループの知的財産権を違法に使用して模倣製品を製造する行為を、効果的に防止できない可能性があり、それに伴う売上シェアの低下や価格競争を引き起こすことで当社グループの業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

生産拠点の一極集中

当社は製品を本社のある和歌山県で集中的に生産し、開発から製造までの一貫体制を敷くことで効率化を図っております。このため、和歌山県近郊で大規模な地震災害等が発生した場合、製造ラインの操業が長期間停止する可能性があります。また、電力供給が安定的に受けられない事態が発生した場合には、計画どおりに生産が行えず、当社グループの業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

事業展開地域での社会的な制度変更等の影響

当社グループは日本国内はもとより、全世界にわたり事業を展開しております。これらの地域においては、以下のようなリスクが内在しており、これらの事象の発生は当社グループの業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

- ・ 経済状況の悪化による需要の低迷
- ・ 予期しない法律または規制の変更
- ・ テロ、戦争、政変、治安の悪化その他の要因による社会的混乱
- ・ 地震等の天変地異

衣料消費の動向や天候不順等による影響

当社グループの製品の主要な販売先は国内外のアパレルやニットメーカーであり、百貨店や量販店などの店頭やウェブサイト等での売上は、衣料に対する個人の消費マインドやトレンドの変化に左右される傾向があります。また猛暑、暖冬、風水害などの天候不順が衣料における市場動向を決定する大きな要因のひとつであり、当社グループの業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

情報システムに関するリスク

当社グループにおいて、情報システムは重要な要素の一つです。人的ミス、機器の故障、通信事業者等の第三者の役務提供の瑕疵等により、また、外部からのサイバー攻撃、不正アクセス、コンピュータウイルス感染等により、情報通信システムの不具合や不備が生じ、取引処理の誤りや遅延等の障害、情報の流出等が生じ、当社グループの業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末において判断したものであります。

(1) 経営成績

当連結会計年度における経済の動向は、米国では底堅さは維持しているものの貿易摩擦の拡大や不安定な株価動向など先行きに懸念を含む状況が続きました。欧州でも輸出の減少で企業部門の景況感が悪化するなど減速傾向が見られ、中国においても米国との貿易摩擦が成長率の鈍化を招いています。わが国においては緩やかな回復基調が続いているとは言え、不安定な世界経済の影響を受けて先行きに不透明感が増えています。

このような経済環境の中、当社グループは第2次中期経営計画「Ever Onward 2020」にもとづき、世界各地のユーザーに向けて積極的な提案営業を展開しました。

しかしながら、当連結会計年度の売上高の状況は、主力の横編機事業で生産地における政治情勢の影響や競争の激化を受けてコンピュータ横編機の販売が低迷し、大幅な減収となりました。デザインシステム事業においても横編機事業の不振にともなってアパレルデザインシステムの売上高は低調となりました。手袋靴下編機事業においても売上高は減少しました。その他事業については堅調な推移となりました。

この結果、当連結会計年度の全体の売上高は513億52百万円（前年同期比28.5%減）となりました。

利益面におきましては、売上高の大幅な減少に加えて、生産調整にともない売上総利益率が悪化したことや、一部顧客の支払遅延に対応して貸倒引当金繰入額を増加させたことなどで営業利益は46億38百万円（前年同期比68.9%減）、経常利益は49億91百万円（前年同期比67.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は38億35百万円（前年同期比66.0%減）といずれも大幅な減益となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（横編機事業）

当社のコア・ビジネスである横編機事業の状況は、アジア地域では中国市場において同国のアパレル消費の拡大にともなって、従来のOEM型生産から企画提案型・高付加価値商品の国内向け生産体制へと転換を図る動きが拡がり、ホールガーメント横編機の導入が拡大しました。一方で先進国アパレル向けの大量生産拠点であるバングラデシュで政情の影響を受けて設備投資が停滞したことや、世界経済の減速懸念からアパレルの生産動向に不確実性が高まったことで、香港大手ニットメーカーのASEAN諸国への設備投資も慎重な姿勢となり販売は低迷しました。また近年急速に販売が拡大したスポーツシューズ生産向けのコンピュータ横編機は丸編機や中国製の廉価な横編機との競争が厳しくなり、売上高を伸ばすことができませんでした。中東のトルコにおいても7月以降のリラ安の進行がユーザーの資金調達難を招き、第2四半期以降の設備投資が低調となりました。

先進国市場では欧州や北米での売上高も前年並みとなった一方で、国内市場におけるコンピュータ横編機の売上高はホールガーメント横編機を中心に前期に比べて拡大しました。

これらの結果、横編機事業の売上高は388億6百万円（前年同期比34.6%減）、セグメント利益（営業利益）は87億67百万円（前年同期比54.9%減）となりました。

(デザインシステム関連事業)

デザインシステム関連事業ではアパレルデザインシステム「SDS-ONE APEX3」の3Dバーチャルシミュレーションの活用による画期的な生産・流通のビジネスモデルを提唱し、積極的に営業展開しましたが、コンピュータ横編機の販売不振に連動して売上高は減少しました。

一方で自動裁断機「P-CAM」については、国内、海外市場ともにテキスタイル分野や自動車内装品分野、その他の産業資材分野に順調に販売が伸びました。

これらによりデザインシステム関連事業の売上高は43億80百万円(前年同期比11.3%増)、セグメント利益(営業利益)は9億44百万円(前年同期比19.0%減)となりました。

(手袋靴下編機事業)

手袋靴下編機事業は、大手ユーザーの設備投資が減少し、売上高は15億55百万円(前年同期比34.5%減)、セグメント利益(営業利益)は2億37百万円(前年同期比50.0%減)となりました。

(その他事業)

その他事業については、メンテナンス部品や紡毛糸、ニット製品の販売などで、売上高は66億9百万円(前年同期比7.0%増)、セグメント利益(営業利益)は9億99百万円(前年同期比849.8%増)となりました。

生産、受注及び販売の実績は、次の通りであります。

生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比
横編機	33,681	63.9%
デザインシステム関連	4,339	115.4%
手袋靴下編機	1,437	64.2%
合計	39,458	67.2%

(注) 金額は、販売価格によっており、消費税等は含まれておりません。

受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比	受注残高(百万円)	前年同期比
横編機	32,923	58.2%	3,117	34.6%
デザインシステム関連	4,243	105.9%	241	63.8%
手袋靴下編機	1,479	61.8%	172	69.4%
合計	38,646	61.3%	3,531	36.7%

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比
横編機	38,806	65.4%
デザインシステム関連	4,380	111.3%
手袋靴下編機	1,555	65.5%
その他	6,609	107.0%
合計	51,352	71.5%

- (注) 1. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合
外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%を占める相手先がないため、記載はありません。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態

当連結会計年度末における総資産は、おもに受取手形及び売掛金の減少などで、前期末に比べて91億91百万円減少し、1,451億46百万円となりました。負債合計は仕入債務や未払法人税等の減少などで前期末に比べて68億66百万円減少し、239億79百万円となりました。純資産は自己株式の取得などで23億24百万円減少し、1,211億66百万円となりました。また、自己資本の額は前期末に比べて23億45百万円減少し1,211億32百万円となり、自己資本比率は前期末より3.5ポイント上昇し83.5%となりました。

(3) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べて26億25百万円増加し、268億49百万円となりました。

各活動別のキャッシュ・フローの状況は次の通りであります。

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

たな卸資産の増加や仕入債務の減少などによる資金の減少はありましたが、売上債権の減少や減価償却費の計上などにより、当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは99億35百万円の資金の増加となりました。(前連結会計年度は93億97百万円の資金の増加)

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

投資有価証券の売却による収入などがありましたが、有形固定資産の取得や投資有価証券の取得による支出などにより、当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは8億72百万円の資金の減少となりました。(前連結会計年度は48億43百万円の資金の減少)

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

自己株式の取得による支出や配当金の支払いによる支出などにより、当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは65億40百万円の資金の減少となりました。(前連結会計年度は17億31百万円の資金の増加)

当社グループの資金調達においては、資金の使途、目的に対応して、営業活動から得られるキャッシュ・フロー、金融機関からの借入等、多様な調達方法を組み合わせて低コストかつ安定的な資金を確保するように努めております。

財務の安全性を示す指標である自己資本比率及び流動比率は、当連結会計年度末においてそれぞれ、83.5%、542.4%となり、極めて良好な財務状態を保っております。

今後も当社グループが将来にわたり世界のリーディングカンパニーとして強固な地位を占め、安定的に成長を維持するために必要な運転資金および設備投資資金は、良好な財務状態および活発な営業活動により、充分調達することが可能と考えております。

次期においても、世界の各市場においてグループ各社の連携による積極的な事業展開を推進するとともに、なお一層のコスト削減を進め、さらなる業績の向上、収益力の強化を図ってまいります。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

当社の企業グループにおきまして幅広く研究開発活動を行っており、当連結会計年度における研究開発費の総額は、3,250百万円であります。

セグメントに関連付けた研究開発費については、当社の研究開発活動が開発課題に対応したプロジェクトを必要に応じてフレキシブルに編成して取り組んでおり、セグメント別に関連付けることが困難であるため記載しておりません。

当連結会計年度における主な研究開発活動の概要は次のとおりであります。

当社グループのコア・ビジネスである横編機分野では、国際繊維機械見本市（ITMA 2019）（2019年6月開催）に向けて、生産効率向上や省電力を両立させた新機種や新機能の開発を行ってまいりました。

昨今、ファッション業界では、サステイナブルをテーマに取り組みが見られてきており、当社も業界に対して、ホールガーメント横編機と高精細な3次元バーチャルサンプルを生み出すデザインシステムを活用した「トータルファッションシステム」でサステイナブルなもの創りを訴求しております。

このような中、製品作りの無縫製法の機運が高まっており、そのニーズに対応したホールガーメント横編機のエントリーモデル「MACH2VS」を新たに開発しました。自走式キャリアを採用し、色柄の作成を可能にします。成型編機においては、「SSR」「SVR」などの主力機種でキャリッジシステムを改良し、生産効率を高めた新機種をそれぞれ開発しました。

またデザインシステムは、3次元のバーチャルシミュレーションのさらなる高速化、操作性の向上を図った新製品「SDS-ONE APEX4」の開発に取り組みました。システム上で、よりリアルなサンプル作成につなげ、企画・デザインから生産までのもの創りを一気通貫でサポートします。

ニット編成面の開発を進めるトータルデザインセンターでは、最先端の横編み技術を駆使し、ホールガーメントサンプルの開発を中心に行ってまいりました。ITMA 2019に向けて、当社独自の機能を活用したサンプル開発や、ファッション業界にとどまらずスポーツやメディカル、インテリア業界、産業資材など異業種への提案を行うためのサンプルの開発も強化しました。

一方、自動裁断機の「P-CAM」シリーズは、「Total Cutting Solution」を確立させるため、裁断機の開発にとどまらず、延反からラベリング、そしてピックアップと裁断の前後工程において生産性向上や省人化につながる開発を継続しています。

当期は一枚断ち自動裁断機の「P-CAM160」をリニューアルしました。これまでと違い、密閉ビニールを使用せず裁断できるようにしたことで、効率化に加え、ビニールの廃棄ロスもなく環境にやさしい仕様となりました。また、海外販売を強化するため、市場のニーズに応じた最適な機能改良にも取り組みました。

今後も性能の向上に加え、お客様の要望に合わせた開発を継続することで、アパレル業界のみならず、航空宇宙関連、自動車産業、産業資材など様々な業界への浸透を図ってまいります。

以上のように、当社では創業以来、「Ever Onward 限りなき前進」の経営理念のもと、「創造性にもとづく独自の技術開発」を基本に、ハードウェア、ソフトウェアを開発してまいります。また、外部リソースを有効に活用しながら開発スピードを高め、常に顧客の立場に立った製品及びノウハウを生み出すための研究開発に努めております。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資につきましては、総額4,347百万円（有形固定資産のみ）の投資を実施いたしました。

なお、セグメントに関連した設備投資については、当社及び主要な連結子会社が原則としてすべてのセグメントを分担しており、各セグメント別に関連付けることが困難であるため記載をしておりません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

2019年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	工具、器具 及び備品	リース 資産	合計	
本社及び 本社工場 (和歌山市)	横編機事業 デザインシステム関連事業 手袋靴下編機事業 その他	製造設備等	5,075	1,021	9,437 (182) 〔3〕	993	1,832	18,360	1,443

- (注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定は含めておりません。
2 上記中の〔 〕内は、連結会社以外からの賃借土地の面積で、外数であります。
3 現在休止中の主要な設備はありません。

(2) 国内子会社

2019年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	工具、器具 及び備品	リース 資産	合計	
(株)シマファイン プレス	本社及び 本社工場 (和歌山市)	横編機事業 デザインシステム 関連事業 手袋靴下編機事業 その他	製造設備等	177	798	52 (28)	24	994	2,047	115

- (注) 現在休止中の主要な設備はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	142,000,000
計	142,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2019年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2019年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	36,600,000	36,600,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	36,600,000	36,600,000		

(注) 提出日現在の発行数には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

2018年7月25日に取締役会の書面決議において決定されたもの

当該制度は、会社法第238条及び240条の規定に基づく株式報酬型ストックオプションとして、当社の取締役および執行役員に対して新株予約権を割り当てることを、2018年7月25日に取締役会の書面決議において決定されたものであり、その内容は次のとおりであります。

決議年月日	2018年7月25日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社の取締役(社外取締役を除く) 5 当社の執行役員 3
新株予約権の数(個)	45 (注) 1
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 4,500 (注) 1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	新株予約権の行使により交付される株式1株当たりの金額を1円とし、これに付与株式数を乗じた金額とする。
新株予約権の行使期間	2018年8月18日から2048年8月17日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	(注) 2
新株予約権の行使条件	(1) 新株予約権者は、当社の取締役および執行役員のいずれの地位をも喪失した日の翌日から10日間に限って募集新株予約権を行使することができる。 (2) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行することができるものとする。
新株予約権の譲渡に関する事項	(注) 3
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 3

当事業年度の末日(2019年3月31日)における内容を記載しております。なお、提出日の前月末(2019年5月31日)現在において、これらの事項に変更はありません。

(注) 1 当社が、当社普通株式につき、株式分割、株式無償割当てまたは株式併合を行う場合には、次の算式により付与株式数の調整を行い、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 株式分割、株式無償割当てまたは株式併合の比率

また、当社が吸収合併もしくは新設合併を行い新株予約権が承継される場合または当社が完全子会社となる株式交換もしくは株式移転を行い新株予約権が承継される場合には、当社は、合併比率等に応じ、必要と認めると付与株式数の調整を行うことができる。

- 2 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
 - (1) 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い計算される資本金等増加限度額に0.5を乗じた金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。
 - (2) 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本準備金の額は、上記(1)記載の資本金等増加限度額から上記(1)に定める増加する資本金の額を減じた額とする。
- 3 当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）、または株式交換もしくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下、「組織再編成行為」という。）をする場合において、組織再編成行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併の効力発生日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社成立の日、株式交換につき株式交換の効力発生日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。）の直前において残存する募集新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編成対象会社」という。）の新株予約権を交付することとする。ただし、以下の条件に沿って再編成対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めることを条件とする。
 - (1) 交付する再編成対象会社の新株予約権の数
新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
 - (2) 新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の種類
再編成対象会社の普通株式とする。
 - (3) 新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数
組織再編成行為の条件等を勘案の上、(注)1に準じて決定する。
 - (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、再編成後払込金額に上記(3)に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。
再編成後払込金額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編成対象会社の株式1株当たり1円とする。
 - (5) 新株予約権を行使することができる期間
「新株予約権の行使期間」に定める募集新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編成行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、「新株予約権の行使期間」に定める募集新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。
 - (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
上記2に準じて決定する。
 - (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限
譲渡による新株予約権の取得については、再編成対象会社の取締役会の決議による承認を要する。
 - (8) 新株予約権の取得条項
以下の 、 、 、 または のいずれかの議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要の場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）は、取締役会が別途定める日に、当社は無償で募集新株予約権を取得することができる。
当社が消滅会社となる合併契約承認の議案
当社が分割会社となる分割契約もしくは新設分割計画承認の議案
当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案
当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案
募集新株予約権の目的である株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することまたは当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについて

ての定めを設ける定款の変更承認の議案

(9) その他の新株予約権の行使の条件

「新株予約権の行使条件」に準じて決定する。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2008年8月13日(注)	1,000	36,600		14,859		21,724

(注) 発行済株式総数の減少は、自己株式の消却によるものであります。

(5) 【所有者別状況】

2019年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)		43	42	136	228	5	13,238	13,692	
所有株式数 (単元)		80,321	5,398	50,835	82,813	48	146,161	365,576	42,400
所有株式数 の割合(%)		21.97	1.48	13.91	22.65	0.01	39.98	100.00	

(注) 1 自己株式1,088,459株は、「個人その他」に10,884単元、「単元未満株式の状況」に59株含まれておりま
す。

2 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が3単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2019年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合(%)
和島興産株式会社	和歌山市本町2丁目1番地	4,020	11.32
株式会社紀陽銀行	和歌山市本町1丁目35番地	1,472	4.15
島 正博	和歌山市	1,070	3.01
島 三博	和歌山市	1,061	2.99
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,046	2.95
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	880	2.48
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	876	2.47
JPMC OPPENHEIMER JASDEC LENDING ACCOUNT (常任代理人 株式会社三菱UFJ 銀行)	6803 S.TUCSON WAY CENTENNIAL, CO 80112, USA (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)	827	2.33
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019 (常任代理人 香港上海銀行東京 支店)	AIB INTERNATIONAL CENTRE P.O. BOX 518 IFSC DUBLIN, IRELAND (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	787	2.22
合同会社和光	和歌山市吹上4丁目3番33号	780	2.20
計		12,821	36.11

(注) 上記のほか当社所有の自己株式 1,088千株があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,088,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 35,469,200	354,692	
単元未満株式	普通株式 42,400		
発行済株式総数	36,600,000		
総株主の議決権		354,692	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が300株(議決権3個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式59株が含まれております。

【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社島精機製作所	和歌山市坂田85番地	1,088,400		1,088,400	2.97
計		1,088,400		1,088,400	2.97

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(2018年11月16日)での決議状況 (取得期間2018年11月19日～2019年3月22日)	1,000,000	3,482,686
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	1,000,000	3,482,686
残存決議株式の総数及び価額の総額		
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)		
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)		

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	476	2,345
当期間における取得自己株式	80	298

(注) 当期間における取得自己株式には、2019年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式				
その他()				
保有自己株式数	1,088,459		1,088,539	

(注) 当期間におけるストックオプションの行使、単元未満株式の買増請求及び保有自己株式数には、2019年6月1日から有価証券報告書提出日までの取引は含めておりません。

3 【配当政策】

当社では、株主のみなさまに対する利益還元を経営の最重要課題のひとつとして位置付けており、事業の持続的な発展を通じて、安定した配当を長期にわたって継続することを基本方針としております。

そのうえで、長期的視点に立った成長投資および今後の事業展開に備えた内部留保にもバランス良く配分を行う方針であります。

次期以降の利益還元方針につきましては、中期経営計画「Ever Onward 2020」に基づき、より利益成長との連動性を高め、連結配当性向を30%以上とするとともに、株価水準や資金の状況、市場環境などを総合的に勘案し、時機に応じて柔軟に自己株式の取得を行うなど、資本効率の向上にも努めるものとしております。

当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めており、毎事業年度における剰余金の配当は期末と中間の2回行うことを基本方針としております。なお、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当期の配当金につきましては、既に中間配当金として1株につき30円00銭を実施しておりますが、期末配当金につきましては、1株につき25円00銭とさせていただきます。これにより中間配当金を加えた通期の配当金は1株につき55円00銭となりました。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
2018年10月30日 取締役会決議	1,095	30.00
2019年6月27日 定時株主総会決議	887	25.00

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社はコーポレート・ガバナンスの充実を、経営の効率化及び健全性、透明性を向上させ、同時に株主、顧客、取引先、従業員などのステークホルダーの利益を重視した経営を行うために重要な要件であると位置付けており、取締役会制度及び監査役制度等の機能を十分に発揮させることにより、適正かつ効果的なコーポレート・ガバナンスが実施できる体制を構築しております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、監査役制度を採用しております。取締役会は社外取締役2名を含め9名、監査役会は社外監査役2名を含め4名（有価証券報告書提出日 2019年6月28日現在）で構成しております。また、取締役会の議長は、代表取締役社長の島三博であります。

取締役会は、原則として毎月1回以上、必要に応じて随時、機動的に開催し、法令で定められた事項及び経営上の重要な事項の審議や経営方針を決定するとともに、業務執行を監督しています。当連結会計年度において、取締役会は13回開催いたしました。

また当社では、2018年6月27日開催の取締役会において執行役員制度を導入しております。執行役員制度により、経営の意思決定および監督機能と業務執行機能を分離し、業務執行の責任の明確化を図っております。執行役員は取締役6名を含め9名であります。

さらに当社では、取締役会の任意の諮問機関として、社外取締役を委員長とし、委員の半数以上を社外取締役に構成する指名・報酬委員会を設置し、指名、報酬にかかる透明性と客観性の確保を図っています。指名・報酬委員会では、役員の選任・解任等に係る基本方針や人事案、後継者計画案、取締役の報酬の基本方針や報酬案等を審議し、取締役会に答申します。当連結会計年度において、指名・報酬委員会は2回開催（うち1回は報酬委員会として開催）いたしました。指名・報酬委員会は、委員長として社外取締役の一柳良雄氏、他の委員として社外取締役の残間里江子氏、代表取締役社長の島三博、総務人事部担当取締役の南木隆の計4名で構成しています。

このように当社では、独立性のある複数の社外取締役による監督機能の充実や執行役員制度の導入、また取締役会の任意の諮問機関として指名・報酬委員会の設置など、ガバナンス体制の強化を図っています。またコンプライアンスやリスク管理等の各委員会活動を通じた内部統制システムの取組みの強化を図るとともに、法務や財務・会計等における専門的な知見を有する社外監査役の選任や監査役会、内部監査室、会計監査人との連携により、適正かつ効果的なコーポレート・ガバナンスが十分に機能する体制が整っているものと判断し、現状の体制としております。

企業統治に関するその他の事項

当社グループにおける内部統制システムの構築を、単に法令の遵守にとどまらず、現状の業務全体を見直し強固な企業体質を築くことを通じて、企業理念・目標を実現させるための要件であるとの認識のもと、その取組みを進めております。内部統制の実効性をより高めるため、内部統制システム推進本部を社内に設置するとともに、「内部通報制度（企業倫理ヘルプライン）」を設けております。さらに「内部統制システムの整備に関する基本方針」を2006年5月8日開催の取締役会で決議し、その後法改正や取組みの進捗を加味し適宜内容の見直しを行っております。この方針に基づき、「コンプライアンス・マニュアル」を制定し、グループ全体におけるコンプライアンスの充実をはかるとともに、コンプライアンス委員会を設置し、全社的な意識向上に取り組んでいます。また、リスクマネジメントにおいては、リスク管理委員会を設置し、全社的に管理すべきリスクを特定、分析のうえ、対応策の検討を行い、リスクを継続的に監視する体制を構築しております。さらに、情報セキュリティ委員会のもと、情報資産の重要性を認識し、その適正な管理を図っています。

なお、取締役会で決議している「内部統制システムの整備に関する基本方針」は次のとおりであります。

- ・取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - ）取締役および従業員は、「シマセイキグループ行動基準」に基づき、法令・定款ならびに社会規範の遵守を図る。

- ）コンプライアンス委員会のもと、当社グループ横断的なコンプライアンスの推進を図る。
- ）法令違反その他のコンプライアンスに関する重要な事実を発見した場合には、通常の報告ルートに加え、グループ会社も対象とする企業倫理ヘルプラインを通じ報告・通報できる体制とする。なお、通報を行った者は通報を行ったことにより不利益な取扱いを受けないものとする。
- ）財務報告の信頼性を確保し、適正な財務報告を実現するため、内部統制システム推進本部のもと、財務報告に係る内部統制を整備し、その有効性を評価する。
- ）市民社会に脅威を与える反社会的勢力・団体に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。
- ）コンプライアンスの状況について、内部監査室が監査を行う。
- ・取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - ）取締役の職務執行に係る情報については、法令および文書取扱規程に基づき適切かつ確実に記録・管理し、検索性の高い状態で保存する。
 - ）取締役および監査役は、常時その情報を閲覧できるものとする。
 - ）情報資産の重要性を認識し、情報の漏洩・紛失等を防止するため、情報セキュリティポリシーに基づき、情報セキュリティ委員会のもとその適切な管理を図る。
- ・損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - ）リスク管理を体系的に定めるリスク管理規程に基づき、リスク管理委員会のもと当社グループ全体のリスクを管理する。
 - ）リスク管理委員会においてリスクを分析・評価し、リスクの合理的な管理、対応策の検討を行い、リスクを継続的に監視する。
 - ）不測の事態が発生した場合に、迅速かつ適切な対応を行い、損害の拡大を防止し、被害を最小限に止めるための危機管理体制を整備する。
 - ）リスク管理の状況については、内部監査室を通じ監査を行う。
- ・取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - ）取締役会は、各取締役の業務執行状況を正確に把握し、迅速かつ柔軟に経営判断できるよう原則として毎月1回以上、必要に応じ随時機動的に開催し、法令で定められた事項および経営上の重要事項の付議だけでなく業績の進捗についても議論し、経営方針を決定する。
 - ）各取締役の業務執行については、取締役会規程および業務分掌規程ならびに職務権限規程等の社内規則に基づく責任と権限および意思決定ルールにより、適正かつ効率的に行われる体制とする。
- ・株式会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
 - ）当社グループ会社においても「シマセイキグループ行動基準」を共有し、コンプライアンスの推進を図る。
 - ）当社グループにおける効率的な内部統制システムを構築するため、グループ会社を主管する部門等を通じ事業運営やリスク管理等に関し、グループ会社への指導・支援を行う。
 - ）当社の取締役等がグループ会社の役員に就任し、情報の共有を図るとともに、グループ会社の経営に関する監督機能および経営管理体制の強化を図る。
 - ）関係会社管理規程により、重要案件の当社への決裁・報告制度を通じたグループ会社の経営管理を行う。
 - ）当社内部監査室により、グループ会社の業務執行状況、法令・社内規定の遵守状況およびリスク管理状況等に関する内部監査を実施する。
- ・監査役の職務を補助すべき使用人に関する事項
 - ）監査役の要請により、内部監査室が監査役の職務の補助を行うものとする。
 - ）監査役が求めた職務に関しては、内部監査室は取締役の指揮・命令を受けないものとし、監査役の指示に従うものとする。
- ・監査役への報告に関する体制
 - ）当社および当社グループ会社の取締役、従業員等は、当社および当社グループの業務または業績に重大な影響を与える事項、法令・定款違反の行為、内部監査の実施状況、企業倫理ヘルプラインを通じた通報等について、すみやかに監査役に対して報告を行う。

- ）前記にかかわらず、監査役はいつでも必要に応じて、当社および当社グループ会社の取締役、従業員等に対して報告を求めることができ、報告を求められた者は迅速に対応を行うものとする。
 - ）監査役に報告を行った者はその報告を行ったことを理由に不利益な取扱いを受けないものとする。
 - ）監査役は、取締役の業務執行状況等を把握するため、重要と思われる会議に出席できるものとする。
- ・ 監査役の職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- ）監査役がその職務の執行にあたり生じた費用の前払いまたは償還等の請求をしたときは、当該監査役の職務の執行に必要でないと認められる場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。
 - ）監査役は、実効的な監査を行うため、代表取締役、会計監査人、内部監査室とそれぞれ定期的に意見交換会を開催することができる。
 - ）監査役独自で外部の専門家による監査業務に関する助言を受けることができる。

責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項及び定款の規定に基づき、社外取締役及び社外監査役との間で、会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しています。当該契約に基づく責任の限度額は、法令に定める最低責任限度額としております。

取締役の定数

当社の定款では、取締役は15名以内とする旨を定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。また、取締役の選任については、累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとしている事項

(自己株式の取得)

当社は、事業環境の変化に対応した機動的な経営を遂行するため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款に定めております。

(中間配当)

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、毎年9月30日を基準日として、取締役会の決議によって会社法第454条第5項に定める剰余金の配当(中間配当)をすることができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性11名 女性2名 (役員のうち女性の比率15.4%)

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長	島 正 博	1937年3月10日生	1961年7月 2009年3月 2017年6月	三伸精機(株)(当社)設立、 代表取締役社長 当社代表取締役社長兼 営業本部長 当社代表取締役会長(現任)	(注)5	1,070
代表取締役 社長 執行役員兼 経営企画部担当	島 三 博	1961年6月23日生	1987年3月 1998年3月 2002年6月 2007年6月 2011年6月 2012年6月 2015年4月 2017年6月 2018年6月	当社入社 当社システム開発部長 当社取締役システム開発部長 当社常務取締役制御システム開発 部、知的財産部、 トータルデザインセンター担当兼 グラフィックシステム開発部長 当社専務取締役生産技術部、 トータルデザインセンター担当兼 生産本部長 当社取締役副社長 経営企画部、トータルデザインセ ンター担当兼営業本部副本部長 当社取締役副社長兼 営業本部副本部長兼 経営企画部担当 当社代表取締役社長兼 営業本部長兼経営企画部担当 当社代表取締役社長執行役員兼 経営企画部担当(現任)	(注)5	1,061
専務取締役 執行役員 営業本部長兼 トータルデザインセンター 担当	梅 田 郁 人	1957年2月20日生	1990年5月 1998年3月 2004年6月 2007年11月 2008年11月 2009年3月 2013年3月 2013年6月 2015年4月 2018年6月	当社入社 当社営業部泉州支店長 当社取締役輸出部長 当社取締役輸出部長兼島精榮榮 有限公司(現島精機(香港)有限 公司)CEO 当社取締役輸出部担当兼島精榮榮 有限公司CEO 当社取締役島精榮有限公司CEO 当社取締役経営企画部長兼島精機 (香港)有限公司CEO 当社常務取締役営業本部副本部長 兼経営企画部長兼島精機(香港) 有限公司CEO 当社常務取締役営業本部副本部長 兼島精機(香港)有限公司CEO 当社専務取締役執行役員営業本部 長兼トータルデザインセンター担 当(現任)	(注)5	153
常務取締役 執行役員 資材部長兼 生産本部担当	有 北 礼 治	1953年2月21日生	1971年3月 2004年3月 2006年6月 2007年11月 2009年3月 2011年6月 2018年6月	当社入社 当社メカトロ開発部長 当社取締役メカトロ開発部長 当社取締役制御システム開発部 担当兼メカトロ開発部長 当社取締役開発本部長 当社常務取締役開発本部長 当社常務取締役執行役員資材部長 兼生産本部担当(現任)	(注)5	9

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役 執行役員 経理財務部長兼 総務人事部、 管理部、物流部担当	南 木 隆	1959年3月28日生	1986年3月 2008年11月 2010年5月 2010年6月 2013年3月 2013年7月 2014年11月 2016年3月 2018年6月	当社入社 当社経理部長 当社経理財務部長 当社取締役管理部担当兼 経理財務部長 当社取締役管理部、物流部担当兼 経理財務部長 当社取締役物流部担当兼 経理財務部長 当社取締役経理財務部長兼 物流部担当 当社取締役経理財務部長兼 管理部、物流部担当 当社取締役執行役員経理財務部長 兼総務人事部、管理部、物流部担 当（現任）	(注)5	0
取締役 執行役員 開発本部長	西 谷 泰 和	1955年8月4日生	1978年3月 2006年3月 2010年4月 2011年6月 2018年6月	当社入社 当社制御システム開発部長 当社資材部長 当社取締役資材部長 当社取締役執行役員開発本部長 （現任）	(注)5	4
取締役 執行役員 営業統括部長	西 川 清 方	1957年10月23日生	1980年4月 2002年10月 2004年4月 2010年11月 2012年3月 2012年6月 2013年3月 2018年6月	ニチメン(株)（現双日(株)）入社 同社アパレル事業本部長 双日(株)アパレル事業部長 当社入社 当社営業本部付部長 当社取締役営業本部付部長 当社取締役営業統括部長 当社取締役執行役員営業統括部長 （現任）	(注)5	0
取締役	一 柳 良 雄	1946年1月3日生	1968年4月 1993年6月 1995年6月 1996年8月 1998年6月 2000年7月 2006年2月 2014年6月	通商産業省（現経済産業省）入省 同省近畿通産局長 同省機械情報産業局次長 同省大臣官房総務審議官 同省退官 (株)一柳アソシエイツ設立 代表取締役&CEO（現任） (株)サーラコーポレーション 社外取締役（現任） 当社取締役（現任）	(注)5	9
取締役	残 間 里江子	1950年3月21日生	1970年4月 1973年6月 1980年6月 2005年7月 2010年3月 2014年3月 2016年6月 2016年9月	静岡放送(株)入社 (株)光文社入社 (株)キャンディッド（現 (株)キャン ディッド・コミュニケーション ズ）設立 代表取締役社長 (株)クリエイティブ・シニア（現 (株)キャンディッドプロデュース） 設立 代表取締役社長（現任） 藤田観光(株) 社外取締役（現任） (株)I B J 社外取締役（現任） 当社取締役（現任） (株)トラスト・テック 社外取締役（現任）	(注)5	0

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役	植田 光 紀	1951年 1月30日生	1973年 3月 2006年10月 2010年 3月 2010年 6月	当社入社 当社営業部長 当社国内営業部参事 当社常勤監査役(現任)	(注)6	19
常勤監査役	戸津井 久 仁	1965年 4月 3日生	1988年 3月 2008年 3月 2018年 6月	当社入社 当社内部監査室長 当社常勤監査役(現任)	(注)6	2
監査役	新川 大 祐	1964年 4月28日生	1991年 5月 1991年 8月 2002年 4月 2003年 1月 2007年11月 2012年 6月 2016年 6月	公認会計士登録 税理士登録 北斗税理士法人設立 社員 北斗税理士法人 代表社員(現任) ㈱バルテス 社外監査役(現任) 当社監査役(現任) 倉敷紡績(株) 社外取締役 (監査等委員)(現任)	(注)7	1
監査役	野村 祥 子	1973年12月31日生	2000年 4月 2010年 4月 2014年 4月 2015年 6月 2016年 4月 2018年 1月 2019年 6月	弁護士登録 堂島法律事務所入所 (現在に至る) 近畿大学法科大学院 非常勤講師(現任) 大阪大学大学院高等司法研究科 招へい教授(現任) 当社監査役(現任) 同志社大学法科大学院 非常勤講師(現任) ㈱神戸物産社外取締役 (現任) シノプフーズ(株)社外監査役 (現任)	(注)8	0
計						2,334

- (注) 1 取締役 一柳良雄、残間里江子は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
- 2 監査役 新川大祐、野村祥子は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- 3 代表取締役社長 島 三博は、代表取締役会長 島 正博の長男であります。
- 4 専務取締役 梅田郁人は、代表取締役会長 島 正博の娘婿であります。
- 5 取締役の任期は、2018年3月期に係る定時株主総会終結の時から2020年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 監査役 植田光紀、戸津井久仁の任期は、2018年3月期に係る定時株主総会終結の時から2022年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 7 監査役 新川大祐の任期は、2016年3月期に係る定時株主総会終結の時から2020年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 8 監査役 野村祥子の任期は、2019年3月期に係る定時株主総会終結の時から2023年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 9 所有株式数にはシマセイキ役員持株会における各持分を含めて記載しております。

社外役員の状況

当社の社外取締役の員数は2名であります。

社外取締役の柳良雄氏は、中立的、客観的な見地から経営監視の役割を担っており、経済、産業政策等の分野における豊富な経験とともに企業経営者としての経営全般にわたる幅広い知識、見識を有しており、当社の経営課題やコーポレート・ガバナンスの強化への意見、提言等を行っております。また、取締役会の諮問機関である指名・報酬委員会の委員長として、役員の指名、報酬に係る事項の審議について重要な役割を担っております。

社外取締役 柳良雄氏は、株式会社一柳アソシエイツの代表取締役&CEOおよび株式会社サーラコーポレーションの社外取締役であります。当社との間には特別な関係はありません。

社外取締役の残間里江子氏は、イベントの企画やPR・広報戦略における豊富な経験を有するとともに企業経営者として経営全般にわたる幅広い見識、経験を有しており、経営陣から独立した客観的な視点により、取締役会の適切な意思決定および経営監督のための意見、提言等を行っております。また、取締役会の諮問機関である指名・報酬委員会の委員として、役員の指名、報酬に係る事項の審議について重要な役割を担っております。

社外取締役 残間里江子氏は、株式会社キャンディッドプロデュースの代表取締役社長、藤田観光株式会社および株式会社IBJ、株式会社トラスト・テックの社外取締役であります。当社との間には特別な関係はありません。

当社の社外監査役の員数は2名であります。

新川 大祐氏は公認会計士・税理士としての豊富な経験をもとに、主に経理・税務的な観点から、監査を通じ当社経営の健全性の確保を図ってもらうため社外監査役に選任しております。

社外監査役 新川大祐氏は北斗税理士法人の代表社員および株式会社バルテス、倉敷紡績株式会社の社外取締役（監査等委員）であります。当社との間には特別な関係はありません。

弁護士である野村 祥子氏は主に法律的な観点から、監査を通じ当社経営の健全性の確保を図ってもらうため社外監査役に選任しております。

社外監査役 野村祥子氏が弁護士として所属する法律事務所は、当社と法律関係の顧問契約を締結しておりましたが、2019年3月31日付で同契約を終了しております。なお、同事務所との顧問契約中も同氏は当社案件には一切関与しておらず、またその取引額は2百万円であり、同事務所収入および当社売上高の1%に満たない金額であり、当社の「社外役員の独立性に関する基準」を満たしているため、独立性に影響を及ぼすものではありません。また同氏は、株式会社神戸物産の社外取締役およびシノブフーズ株式会社の社外監査役を兼務しております。当社との間には特別な関係はありません。

当社では、社外役員の独立性に関する基準を定め、当該基準に基づき社外取締役2名及び社外監査役2名を一般株主と利益相反の生じるおそれのない独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

（社外役員の独立性に関する基準）

当社の社外取締役または社外監査役（以下「社外役員」という。）が、当社からの独立性が高いと判断するためには、以下のいずれの要件をも満たすものとする。

1. 現在および過去において、当社および当社の関係会社（以下「当社グループ」という。）の業務執行者（注1）でないこと。加えて、社外監査役にあつては、当社グループの業務執行を行わない取締役であったことがないこと。
2. 現在および過去3年間において、以下のいずれにも該当していないこと。
 - (1) 当社グループを主要な取引先とする者（注2）またはその業務執行者
 - (2) 当社グループの主要な取引先（注3）またはその業務執行者
 - (3) 当社の大株主（総議決権の10%以上の議決権を直接または間接的に保有している者）またはその業務執行者
 - (4) 当社グループが大株主（総議決権の10%以上の議決権を直接または間接的に保有）となっている者の業務執行者
 - (5) 当社グループから役員報酬以外に多額の金銭その他の財産（注4）を得ているコンサルタント、公認会計士等の会計専門家、弁護士等の法律専門家（当該財産を得ている者が法人、組合等の団体である場合には、当該団体に所属する者をいう。）
 - (6) 当社グループから多額の金銭その他の財産（注4）による寄付を受けている者またはその業務執行者

- (7) 当社グループの業務執行者が他の会社において社外役員に就任している場合における当該他の会社の業務執行者
- (8) 上記(1)から(7)に該当する者が重要な者である場合において、その者の配偶者、二親等内の親族、同居の親族または生計を共にする者
- (9) 当社グループの取締役（社外取締役を除く）および部門責任者等の重要な業務を執行する者の配偶者、二親等内の親族、同居の親族または生計を共にする者

3. その他、独立した社外役員としての職務を果たせないと合理的に判断される事情を有していないこと。

- (注) 1 業務執行者とは、法人その他の団体の業務執行取締役、執行役、執行役員、業務を執行する社員、その他これらに類する役職者および使用人等の業務を執行する者をいう。
- 2 当社グループを主要な取引先とする者とは、当社グループとの取引額が年間100百万円またはその連結売上高の2%のいずれかを超える者をいう。
 - 3 当社グループの主要な取引先とは、当社グループとの取引額が年間100百万円または当社グループの連結売上高の2%のいずれかを超える者、当社グループの連結総資産額の2%を超える額を当社グループに融資している者をいう。
 - 4 多額の金銭その他の財産とは、その価額の総額が、個人の場合は年間10百万円、団体の場合はその年間売上高の2%を超えることをいう。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会を通じ取締役の業務報告を受けるとともに、定期的に各取締役に対するヒアリングを行い、その業務執行状況について監督しております。社外取締役には、担当の窓口を設け、必要な情報の提供やミーティングのサポート等を行っています。また社外監査役等との情報交換も図っています。

社外監査役は、監査役会において常勤監査役の提供する監査情報や各監査役の監査結果の報告を通じて情報の共有化を図っております。なお、必要に応じ、内部監査室がサポートする体制としております。

監査役と会計監査人との間では、監査計画の確認を行い、定期的に当社および連結子会社の監査結果の報告を受け、必要に応じて報告を求めるなど、相互に情報交換を行い、連携を密にして監査の実効性および効率性の向上に努めております。またその会議には内部監査室も参加し、情報の共有を図っています。

監査役と内部監査室は毎月1回定期的に合同会議を実施しており、内部監査室が作成した内部監査報告について監査役が聴取することや、監査役、内部監査室とも、お互いの意見・要望を監査業務に反映させております。

また、内部統制システム推進本部は、監査役や関連部門が参加する会議を行い、主として財務報告に係る内部統制について会計監査人とも連携して、その整備および運用を行っています。

このように、当社では社外取締役や社外監査役による監督または監査、監査役及び内部監査室、会計監査人が緊密に連携することにより、適確かつ十分なガバナンスを総合的に運用できる体制を維持しております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

当社の監査役は、常勤監査役2名、社外監査役2名（非常勤）で構成されています。監査役は、取締役会及びその他重要な会議への出席、重要な書類の閲覧、子会社の調査などを通じた監査を行うとともに、取締役等からの個別ヒアリングを含め積極的な情報収集に努め、取締役の職務執行を十分に監視できる体制となっております。また監査役会は定期的および必要に応じ開催（当連結会計年度においては13回開催）しております。社外監査役には法務分野に精通した弁護士と財務および会計に関する相当程度の知見を有する公認会計士・税理士を選任しており、コンプライアンスおよび経理業務全般に対するチェック体制を充実させています。

内部監査の状況

当社は、内部統制を強化するため内部監査室（3名）を設置しており、監査役とは各々の独立性を重視しながら、定期的な会合を持つことで連携を強め、監査計画に基づいた効率的な内部監査を実施し、その状況を代表取締役社長に報告するとともに、適宜各部門にフィードバックしております。

会計監査の状況

a．監査法人の名称

大手前監査法人

b．業務を執行した公認会計士

栞矢 晋氏（継続監査年数7年）

木梨 譲氏（継続監査年数1年）

c．監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務にかかる補助者は、公認会計士10名であります。

d．監査法人の選定方針と理由

（選定方針）

- ・ 監査法人としての品質管理体制が有効に整備・運用されていること。
- ・ 会社法上の欠格事由に該当していないこと。
- ・ 監査法人の独立性に問題がないこと。
- ・ 実務経験が豊富で、専門的知識・能力に優れた公認会計士が在籍しており、当社の規模や事業内容に適した監査チームの編成が可能な体制であること。
- ・ 監査報酬の見積額が合理的で適切な水準であること。

（選定理由）

選定方針に基づき、監査法人の品質管理体制や監査組織、独立性、専門性、効率性、監査報酬の妥当性等を総合的に勘案した結果、会計監査が適正に行われる体制を備えており、当社のガバナンス強化に寄与すると判断したためであります。

e．監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役会は、監査法人の監査報告、往査立会等を通じて監査実施内容を把握しており、監査法人の品質管理体制の状況、監査担当者の専門的能力や実務経験、経営者や監査役とのコミュニケーションの状況、監査報酬の妥当性等の項目を勘案した評価基準に基づき、每期監査役会において評価および再任の決議を行っております。

監査報酬の内容等

「企業内容等の開示に関する内閣府令の一部を改正する内閣府令」（平成31年1月31日 内閣府令第3号）による改正後の「企業内容等の開示に関する内閣府令」第二号様式記載上の注意（56）d（f）からの規定に経過措置を適用しております。

a．監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	31		32	
連結子会社				
計	31		32	

b．その他重要な報酬の内容

該当事項はありません。

c．監査報酬の決定方針

該当事項はありませんが、監査日数・監査業務などの内容を勘案した上で、監査役会の同意を得て決定しております。

d．監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、監査計画における監査時間及び監査報酬の推移並びに過年度の監査計画と実績の状況を確認し、報酬額の見積りの妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っています。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

取締役の報酬等の額またはその算定方法は、株主総会で承認された範囲内で、他社報酬水準も考慮の上、その透明性と客観性を高めるため、社外取締役を委員長とする指名・報酬委員会において審議を行い、その答申を受けて、取締役会の決議により決定します。

(取締役報酬の基本方針)

- 1) 当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を動機づける報酬内容とする
- 2) 各取締役の役割や責任に応じた報酬体系とし、透明性と公正性を確保する
- 3) 企業価値向上の実現に必要な優秀な人材の確保に資するものとする
- 4) 株主と利益を共有する報酬体系とする

指名・報酬委員会では、取締役の報酬決定方針、役位等別の基本報酬の額、個人別の業績評価、業績連動報酬額、株式報酬型ストックオプションの支給数等の審議を行うこととしており、当期は2回開催(うち1回は報酬委員会として開催)いたしました。

監査役の報酬等については、株主総会で承認された範囲内で、常勤・非常勤の別、監査業務の分担の状況等に応じて監査役の協議により決定します。

当社の役員の報酬等に関する株主総会の決議年月日は、取締役の報酬等に関しては2018年6月27日であり、決議の内容は、基本報酬枠として年額300百万円以内(うち社外取締役分は年額50百万円以内、また使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない)、業績連動型の変動報酬枠として当該連結事業年度の親会社株主に帰属する当期純利益の2%以内(社外取締役を除く)、株式報酬型ストックオプションとしての新株予約権は年額100百万円以内(社外取締役を除く)であります。また監査役の報酬等に関しては、株主総会の決議年月日は1992年6月26日であり、決議の内容は、年額50百万円以内であります。

上記株主総会決議のとおり、当社の取締役の報酬等は、基本報酬と業績連動報酬、株式報酬型ストックオプションで構成されています。基本報酬は、取締役としての責務、役位等を総合的に勘案して決定される金銭報酬で、外部の報酬サーベイに基づく他社水準も考慮の上、基準額を定めるものとしています。また業績連動報酬は、連結事業年度の親会社株主に帰属する当期純利益の2%以内で指名・報酬委員会の定める基準額をもとに、役位別支給割合にて按分計算を行い、各取締役への標準支給額を算定するとともに、指名・報酬委員会において各取締役の業績の評価を行い、その評価を支給額に反映(変動幅:0~150%、標準:100%)して計算します。株式報酬型ストックオプションについては、株主との価値の共有、中長期的なインセンティブ報酬として新株予約権を付与し、取締役の退任時のみ行使可能としています。株式報酬型ストックオプションは、前連結事業年度の各取締役の業績評価に基づき、付与個数を決定します(株式報酬型ストックオプションの報酬額としては、標準の場合で基本報酬の15%前後を想定しています。)

業績連動報酬に係る指標としては、定量的な指標では営業実績としての連結営業利益計画および最終利益である親会社株主に帰属する当期純利益計画の達成度とし、定性的な指標としては中期経営計画に対する担当領域における経営課題に対する取組み等への達成度としています。

なお、当連結事業年度における業績連動報酬に係る定量的な指標の実績としては、連結営業利益で期初計画16,000百万円に対して実績4,638百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で期初計画11,500百万円に対して実績3,835百万円でした。

また、役員に対する退職慰労金制度は、2013年6月27日をもって廃止しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (人)
		固定 報酬	業績連動 報酬	ストック オプション	
取締役 (社外取締役を除く)	177	161		15	10
監査役 (社外監査役を除く)	27	27			3
社外役員	32	32			4

- (注) 1 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与(賞与を含む)は含まれておりません。
2 上記の支給人員、支給額には、2018年6月27日開催の第57回定時株主総会の終結の時をもって退任した取締役3名、監査役1名が含まれております。
3 スtockオプションは、株式報酬型Stockオプションとして取締役5名に付与した新株予約権に係る費用計上額を記載しております。

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、株式の価値の変動または株式に係る配当によって利益を受けることを目的とする投資を純投資目的である投資株式とし、事業上の重要性や取引関係の維持、強化、連携等を通じて当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資すると判断する場合にその株式を保有していくことを目的とする投資を純投資目的以外の目的である投資株式としております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

- a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

取締役会は、毎年、個別銘柄について、保有することによるリスクと取引関係の維持、強化、連携等を通じて得られる利益等を総合的に勘案し、中長期的な観点から純投資目的以外の株式を保有することの合理性を検証し、保有を維持するか縮減するかを決定します。

- b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	10	1,682
非上場株式以外の株式	13	3,274

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式			
非上場株式以外の株式	2	509	事業上の重要性や取引関係の維持、強化、連携等を通じ、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資すると判断したため。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式	1	1,000
非上場株式以外の株式	5	340

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
(株)紀陽銀行	953,624	1,059,624	保有することによるリスクと取引関係の維持、強化、連携等を通じて、得られる利益等を総合的に勘案し、中長期的な観点から保有することの合理性を検証しております。	有
	1,471	1,788		
(株)TSI ホールディングス	637,000		事業上の重要性や取引関係の維持、強化、連携等を通じ、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資すると判断したため。	有
	403			
(株)三井住友 フィナンシャル グループ	103,000	103,000	保有することによるリスクと取引関係の維持、強化、連携等を通じて、得られる利益等を総合的に勘案し、中長期的な観点から保有することの合理性を検証しております。	有
	399	459		
(株)三菱UFJ フィナンシャル グループ	530,000	530,000	保有することによるリスクと取引関係の維持、強化、連携等を通じて、得られる利益等を総合的に勘案し、中長期的な観点から保有することの合理性を検証しております。	有
	291	369		
(株)池田泉州 ホールディングス	814,946	904,946	保有することによるリスクと取引関係の維持、強化、連携等を通じて、得られる利益等を総合的に勘案し、中長期的な観点から保有することの合理性を検証しております。	有
	231	361		
NAMESON HOLDINGS LIMITED	19,390,000	19,390,000	保有することによるリスクと取引関係の維持、強化、連携等を通じて、得られる利益等を総合的に勘案し、中長期的な観点から保有することの合理性を検証しております。	無
	197	441		
(株)大和証券 グループ本社	200,000	200,000	保有することによるリスクと取引関係の維持、強化、連携等を通じて、得られる利益等を総合的に勘案し、中長期的な観点から保有することの合理性を検証しております。	有
	107	135		
(株)オンワード ホールディングス	118,207	107,238	事業上の重要性や取引関係の維持、強化、連携等を通じ、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資すると判断したため。	無
	69	98		
(株)サイバーリンクス	43,680	43,680	保有することによるリスクと取引関係の維持、強化、連携等を通じて、得られる利益等を総合的に勘案し、中長期的な観点から保有することの合理性を検証しております。	無
	47	53		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
(株)オークワ	19,325	19,325	保有することによるリスクと取引関係の維持、強化、連携等を通じて、得られる利益等を総合的に勘案し、中長期的な観点から保有することの合理性を検証しております。	無
	21	21		
(株)みずほ フィナンシャル グループ	82,300	82,300	保有することによるリスクと取引関係の維持、強化、連携等を通じて、得られる利益等を総合的に勘案し、中長期的な観点から保有することの合理性を検証しております。	有
	14	15		
(株)立花エレテック	7,920	7,920	保有することによるリスクと取引関係の維持、強化、連携等を通じて、得られる利益等を総合的に勘案し、中長期的な観点から保有することの合理性を検証しております。	有
	13	16		
スガイ化学工業(株) (注)	5,000	50,000	保有することによるリスクと取引関係の維持、強化、連携等を通じて、得られる利益等を総合的に勘案し、中長期的な観点から保有することの合理性を検証しております。	有
	6	8		
ノーリツ鋼機(株)		43,200	保有の合理性を検証した結果、当事業年度において保有株式を売却しております。	無
		108		
東京海上 ホールディングス(株)		11,000	保有の合理性を検証した結果、当事業年度において保有株式を売却しております。	無
		52		
(株)三十三 フィナンシャル グループ		3,192	保有の合理性を検証した結果、当事業年度において保有株式を売却しております。	無
		5		

(注) スガイ化学工業(株)は、2018年10月1日付けで、普通株式10株につき1株の割合で株式併合しています。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表について、大手前監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更については的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準設定主体等の行う研修に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,575	26,920
受取手形及び売掛金	4 70,017	4 56,784
商品及び製品	10,838	11,821
仕掛品	1,142	793
原材料及び貯蔵品	5,864	6,673
その他	1,444	1,854
貸倒引当金	1,989	1,993
流動資産合計	111,893	102,854
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	25,726	26,935
減価償却累計額	19,400	19,814
建物及び構築物（純額）	6,326	7,121
機械装置及び運搬具	6,342	6,818
減価償却累計額	4,501	4,734
機械装置及び運搬具（純額）	1,840	2,083
工具、器具及び備品	7,638	7,762
減価償却累計額	6,552	6,646
工具、器具及び備品（純額）	1,085	1,115
土地	2 11,392	2 11,665
リース資産	6,072	7,339
減価償却累計額	3,245	3,958
リース資産（純額）	2,827	3,380
建設仮勘定	42	213
有形固定資産合計	23,514	25,579
無形固定資産		
のれん	3,246	2,987
その他	349	364
無形固定資産合計	3,596	3,352
投資その他の資産		
投資有価証券	1 10,646	1 7,834
退職給付に係る資産	1,056	1,156
繰延税金資産	1,635	1,596
その他	1 3,535	1 5,321
貸倒引当金	1,539	2,547
投資その他の資産合計	15,334	13,361
固定資産合計	42,444	42,292
資産合計	154,337	145,146

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,466	2,484
電子記録債務	1,325	520
短期借入金	8,499	8,879
リース債務	671	818
未払法人税等	3,321	168
賞与引当金	901	1,176
債務保証損失引当金	381	342
その他	6,450	4,572
流動負債合計	26,018	18,962
固定負債		
長期未払金	1,051	993
リース債務	2,405	2,861
再評価に係る繰延税金負債	2 23	2 23
退職給付に係る負債	824	725
その他	523	412
固定負債合計	4,827	5,017
負債合計	30,846	23,979
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,859	14,859
資本剰余金	25,867	25,867
利益剰余金	89,978	91,440
自己株式	258	3,743
株主資本合計	130,447	128,424
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	941	63
土地再評価差額金	2 7,003	2 7,003
為替換算調整勘定	1,335	770
退職給付に係る調整累計額	427	418
その他の包括利益累計額合計	6,969	7,292
新株予約権	-	19
非支配株主持分	13	14
純資産合計	123,491	121,166
負債純資産合計	154,337	145,146

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
売上高	71,858	51,352
売上原価	38,419	28,196
売上総利益	33,438	23,155
販売費及び一般管理費	1, 2 18,532	1, 2 18,516
営業利益	14,905	4,638
営業外収益		
受取利息	504	296
受取配当金	188	198
デリバティブ利益	43	-
受取賃貸料	123	141
その他	539	577
営業外収益合計	1,399	1,213
営業外費用		
支払利息	181	456
為替差損	368	238
貸倒引当金繰入額	50	50
その他	180	116
営業外費用合計	779	860
経常利益	15,525	4,991
特別利益		
投資有価証券売却益	-	147
固定資産売却益	3 12	3 16
国庫補助金	-	23
新株予約権戻入益	41	-
特別利益合計	54	188
特別損失		
固定資産除売却損	4 23	4 20
減損損失	5 31	-
投資有価証券売却損	-	27
代理店解約損	82	31
特別損失合計	136	80
税金等調整前当期純利益	15,443	5,099
法人税、住民税及び事業税	4,214	995
法人税等調整額	53	268
法人税等合計	4,161	1,263
当期純利益	11,281	3,836
非支配株主に帰属する当期純利益	2	0
親会社株主に帰属する当期純利益	11,279	3,835

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
当期純利益	11,281	3,836
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	22	878
為替換算調整勘定	1,084	564
退職給付に係る調整額	200	8
その他の包括利益合計	1,861	1,322
包括利益	10,420	3,513
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	10,418	3,512
非支配株主に係る包括利益	2	0

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	14,859	21,724	80,480	6,140	110,923
当期変動額					
剰余金の配当			1,774		1,774
親会社株主に帰属する 当期純利益			11,279		11,279
自己株式の取得				8	8
自己株式の処分		4,143	5	5,890	10,028
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計		4,143	9,498	5,882	19,524
当期末残高	14,859	25,867	89,978	258	130,447

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配 株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	919	7,003	250	226	6,108	55	8	104,879
当期変動額								
剰余金の配当								1,774
親会社株主に帰属する 当期純利益								11,279
自己株式の取得								8
自己株式の処分								10,028
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	22		1,084	200	861	55	4	912
当期変動額合計	22		1,084	200	861	55	4	18,611
当期末残高	941	7,003	1,335	427	6,969		13	123,491

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	14,859	25,867	89,978	258	130,447
当期変動額					
剰余金の配当			2,373		2,373
親会社株主に帰属する 当期純利益			3,835		3,835
自己株式の取得				3,485	3,485
自己株式の処分					
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			1,462	3,485	2,022
当期末残高	14,859	25,867	91,440	3,743	128,424

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配 株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	941	7,003	1,335	427	6,969		13	123,491
当期変動額								
剰余金の配当								2,373
親会社株主に帰属する 当期純利益								3,835
自己株式の取得								3,485
自己株式の処分								
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	878		564	8	322	19	1	301
当期変動額合計	878		564	8	322	19	1	2,324
当期末残高	63	7,003	770	418	7,292	19	14	121,166

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	15,443	5,099
減価償却費	2,104	2,194
のれん償却額	404	403
貸倒引当金の増減額(は減少)	143	1,075
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	80	193
受取利息及び受取配当金	693	494
支払利息	181	456
為替差損益(は益)	128	93
有形固定資産除売却損益(は益)	10	4
投資有価証券売却損益(は益)	0	119
減損損失	31	-
デリバティブ損益(は益)	43	-
新株予約権戻入益	41	-
売上債権の増減額(は増加)	4,141	11,864
たな卸資産の増減額(は増加)	183	1,892
その他流動資産の増減額(は増加)	665	463
仕入債務の増減額(は減少)	2,194	2,278
その他流動負債の増減額(は減少)	968	2,178
その他	435	407
小計	12,011	13,976
利息及び配当金の受取額	691	492
利息の支払額	203	374
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	3,101	4,158
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,397	9,935
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	351	220
定期預金の払戻による収入	869	499
有形固定資産の取得による支出	2,568	2,657
有形固定資産の売却による収入	75	18
投資有価証券の取得による支出	2,741	507
投資有価証券の売却による収入	154	2,250
その他	282	256
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,843	872

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	942	-
長期借入金の返済による支出	5,000	-
ファイナンス・リース債務の返済による支出	558	657
自己株式の取得による支出	8	3,512
ストックオプションの行使による収入	69	-
新株予約権の行使による自己株式の処分による収入	9,916	-
新株予約権の発行による収入	28	-
配当金の支払額	1,773	2,370
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,731	6,540
現金及び現金同等物に係る換算差額	348	103
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	5,937	2,625
現金及び現金同等物の期首残高	18,286	24,223
現金及び現金同等物の期末残高	1 24,223	1 26,849

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 13社

連結子会社の名称

「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

従来、連結子会社であったティーエスエム工業株式会社は2018年10月1日付で当社へ吸収合併いたしましたので、連結の範囲から除外しております。

(2) 非連結子会社の名称等

SHIMA SEIKI PORTUGAL, UNIPessoal LDA 他6社

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社はありません。

(2) 持分法を適用していない非連結子会社の名称等

SHIMA SEIKI PORTUGAL, UNIPessoal LDA 他6社

(持分法を適用していない理由)

持分法非適用会社は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響額が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は9社(SHIMA SEIKI EUROPE LTD.、SHIMA SEIKI U.S.A. INC.、島精機(香港)有限公司、SHIMA SEIKI ITALIA S.P.A.、島精榮榮(上海)貿易有限公司、SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.、東莞島榮榮貿易有限公司、SHIMA SEIKI (THAILAND) CO.,LTD.、SHIMA SEIKI KOREA INC.)を除いて連結決算日と同じであります。12月31日を決算日とするSHIMA SEIKI EUROPE LTD.、SHIMA SEIKI U.S.A. INC.、SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.については、決算日現在の財務諸表を使用して連結しており、連結決算日との間に生じた重要な取引については調整を行っておりません。

また、島精機(香港)有限公司、島精榮榮(上海)貿易有限公司、東莞島榮榮貿易有限公司、SHIMA SEIKI (THAILAND) CO.,LTD.、SHIMA SEIKI KOREA INC.、SHIMA SEIKI ITALIA S.P.A. (決算日 12月31日)については連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用して連結しております。

(連結子会社の事業年度等に関する事項の変更)

従来、決算日が連結決算日と異なるSHIMA SEIKI ITALIA S.P.A.については、連結決算日との差異が3ヶ月以内であるため、当該連結子会社の当該会計期間に係る財務諸表を利用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については調整を行った上で連結しておりましたが、連結財務情報開示をより適正化するため、当連結会計年度より、連結決算日に仮決算を行う方法に変更しております。

この変更に伴い、当連結会計年度は2018年1月1日から2019年3月31日までの15ヵ月間を連結しております。

なお、当該子会社の2018年1月1日から2018年3月31日までの売上高は15億79百万円、営業利益は1億42百万円、経常利益は1億28百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は1億18百万円であります。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

1 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)を採用しております。

2 その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

総平均法に基づく原価法を採用しております。

デリバティブ

時価法を採用しております。

たな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

1 製品、原材料及び仕掛品

主として移動平均法を採用しております。

2 貯蔵品

主として先入先出法を採用しております。

3 商品(在外連結子会社)

主として個別法を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び国内連結子会社については、主として定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用し、在外連結子会社については、主として定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物	3～60年
機械装置及び運搬具	2～12年
工具、器具及び備品	2～20年

無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(3～5年)に基づいております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

また在外連結子会社は、債権の回収可能性を個別に検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

債務保証損失引当金

当社製品を購入した顧客のリース会社及び提携金融機関に対する債務保証に係る損失に備えるため、発生可能性を個別に検討して算定した損失見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、先物為替予約については振当処理を、金利スワップについては特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

1 ヘッジ手段

先物為替予約取引

2 ヘッジ対象

外貨建金銭債権

ヘッジ方針

社内規程に基づき、外貨建取引における為替変動リスク及び借入金の金利変動リスクをヘッジしております。取組時は、実需の範囲で行うことを原則とし、投機目的のための取引は行わない方針であります。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象における通貨・期日等の重要な条件が同一であり、その後の為替相場及び金利相場の変動による相関関係は確保されているため、有効性の評価を省略しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、20年間の定額法による償却を行っております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更するとともに、税効果会計関係注記を変更しました。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」1,640百万円及び「固定負債」の「繰延税金負債」5百万円を「投資その他の資産」の「繰延税金資産」1,635百万円に含めて表示しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(評価性引当額の合計額を除く。)及び同注解(注9)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前連結会計年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「受取賃貸料」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた663百万円は、「受取賃貸料」123百万円、「その他」539百万円として組み替えております。

(追加情報)

(賞与引当金の支給対象期間の改定)

賞与引当金の支給対象期間を以下のように改定いたしました。

冬季賞与：5月21日～11月20日から4月1日～9月30日

夏季賞与：11月21日～5月20日から10月1日～3月31日

業績配当：2月21日～2月20日から4月1日～3月31日

この結果、従来と同一の支給対象期間によった場合と比較して賞与引当金残高が2億93百万円増加し、営業利益、経常利益および税金等調整前当期純利益は2億57百万円減少しております。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
投資有価証券(株式)	563百万円	565百万円
その他(出資金)	38百万円	35百万円

2 土地の再評価

土地の再評価に関する法律(1998年3月31日公布法律第34号)及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律(2001年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。

・再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(1998年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(1991年法律第69号)第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価額に合理的な調整を行って算出しております。

・再評価を行った年月日

2002年3月31日

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	5,002百万円	5,067百万円

3 保証債務

取引先に対する債務の保証を行っております。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
販売機械購入資金ローン (37社)	573百万円	(29社) 383百万円
リース債務 (73社)	276百万円	(56社) 221百万円
売上債権流動化に伴う遡及義務 (1社)	391百万円	(1社) 178百万円
計	1,241百万円	783百万円

4 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれておりません。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
受取手形	18百万円	29百万円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち、主なものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
運賃荷造費	1,636百万円	1,191百万円
貸倒引当金繰入額	335百万円	1,100百万円
従業員給料手当	3,578百万円	3,641百万円
賞与引当金繰入額	286百万円	350百万円
退職給付費用	105百万円	97百万円
研究開発費	2,794百万円	3,250百万円

2 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
	2,794百万円	3,250百万円

3 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
機械装置及び運搬具	7百万円	12百万円
工具、器具及び備品	5百万円	4百万円
計	12百万円	16百万円

4 固定資産除売却損の内訳は次のとおりであります。

(売却損)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
土地	5百万円	百万円
機械装置及び運搬具	0百万円	1百万円
工具、器具及び備品	2百万円	百万円
計	8百万円	1百万円

(除却損)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
機械装置及び運搬具	10百万円	10百万円
建物及び構築物	1百万円	1百万円
工具、器具及び備品	3百万円	6百万円
計	15百万円	19百万円

5 減損損失

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
大阪府忠岡町	その他事業	機械装置等	31

当社グループは事業内容を資産グルーピングの基礎として横編機事業・デザインシステム関連事業・手袋靴下編機事業・その他事業及び各賃貸資産・遊休資産にグルーピングしております。

上記その他事業に係る資産は、収益性が著しく低下していることから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(31百万円)として特別損失に計上しております。なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、取引事例等を勘案した合理的な見積りにより評価しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	20百万円	990百万円
組替調整額	0百万円	119百万円
税効果調整前	20百万円	1,109百万円
税効果額	2百万円	231百万円
その他有価証券評価差額金	22百万円	878百万円
為替換算調整勘定		
当期発生額	1,084百万円	564百万円
組替調整額	百万円	百万円
税効果調整前	1,084百万円	564百万円
税効果額	百万円	百万円
為替換算調整勘定	1,084百万円	564百万円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	297百万円	72百万円
組替調整額	7百万円	85百万円
税効果調整前	290百万円	12百万円
税効果額	89百万円	4百万円
退職給付に係る調整額	200百万円	8百万円
その他の包括利益合計	861百万円	322百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	36,600			36,600

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	2,117	1	2,030	87

(注) 自己株式の増加1千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

自己株式の減少2,030千株は、ストック・オプションの権利行使による減少であります。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2017年6月28日 定時株主総会	普通株式	862百万円	25円00銭	2017年3月31日	2017年6月29日
2017年10月30日 取締役会	普通株式	912百万円	25円00銭	2017年9月30日	2017年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,277百万円	35円00銭	2018年3月31日	2018年6月28日

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	36,600			36,600

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	87	1,000		1,088

(注) 自己株式の増加1,000千株は、取締役会決議に基づく自己株式の取得による増加1,000千株及び単元未満株式の買取りによる増加0千株であります。

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(百万円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	2018年ストック・オプションとしての新株予約権						19
合計							19

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,277百万円	35円00銭	2018年3月31日	2018年6月28日
2018年10月30日 取締役会	普通株式	1,095百万円	30円00銭	2018年9月30日	2018年12月4日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	887百万円	25円00銭	2019年3月31日	2019年6月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
現金及び預金勘定	24,575百万円	26,920百万円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	351百万円	71百万円
現金及び現金同等物	24,223百万円	26,849百万円

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、横編機事業、デザインシステム関連事業、手袋靴下編機事業及びその他事業における生産設備等(機械装置及び運搬具他)並びにサーバー等の器具及び備品であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 リース資産」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に横編機の製造販売事業を行うために必要な資金を銀行借入などにより調達しており、一時的な余資については安全性の高い金融資産で運用しております。また、デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、グローバルに事業展開を行っていることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、一部について先物為替予約を利用してヘッジを行っております。投資有価証券は、主に取引先企業の株式や債券、投資信託などであり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。また、その一部は、部品等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、恒常的に同じ外貨建ての受取手形及び売掛金の残高の範囲内にあります。借入金は、主に運転資金及び設備投資資金の調達を目的としたものであり、返済日は決算日後、最長で1.5ヵ月後であります。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計方針に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、営業債権について内部規程に基づき、関連部門が情報共有を図りながら、取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、カウンターパーティーリスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社グループは、外貨建ての営業債権債務について、通貨別月別に把握した為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約を利用してヘッジを行っております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況についても継続的に見直しを行っております。

デリバティブ取引については、内部規程に基づいて行っており、予約状況等について取締役会等に随時報告しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、各部署及び関係会社からの報告等に基づき、経理財務部及び各社が適時に資金繰計画を作成することにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）参照）。

前連結会計年度（2018年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	24,575	24,575	
(2) 受取手形及び売掛金	70,017		
貸倒引当金（ 1 ）	1,987		
	68,029	68,029	
(3) 投資有価証券			
其他有価証券	7,400	7,400	
資産計	100,005	100,005	
(1) 支払手形及び買掛金	4,466	4,466	
(2) 電子記録債務	1,325	1,325	
(3) 短期借入金	8,499	8,499	
負債計	14,291	14,291	

（ 1 ） 受取手形及び売掛金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

当連結会計年度（2019年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	26,920	26,920	
(2) 受取手形及び売掛金	56,784		
貸倒引当金（ 1 ）	1,992		
	54,791	54,791	
(3) 投資有価証券			
其他有価証券	5,587	5,587	
資産計	87,299	87,299	
(1) 支払手形及び買掛金	2,484	2,484	
(2) 電子記録債務	520	520	
(3) 短期借入金	8,879	8,879	
負債計	11,884	11,884	

（ 1 ） 受取手形及び売掛金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに投資有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

信用リスクを個別に把握することが困難なため、貸倒引当金を信用リスクとみなし回収期日までの期間をリスクフリーレートで割り引いて算定する方法によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格、債券は取引金融機関から提示された価格、投資信託は公表されている基準価格によっております。

また、保有目的ごとの投資有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照下さい。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 電子記録債務、(3) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	2018年3月31日	2019年3月31日
非上場株式	2,682	1,682
関係会社株式	563	565

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある投資有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2018年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	24,575			
受取手形及び売掛金	41,519	28,486	10	
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1)債券(その他)	988			
(2)その他		36	297	
合計	67,083	28,523	307	

当連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	26,920			
受取手形及び売掛金	31,880	24,777	127	
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1)債券(その他)				
(2)その他		35	734	
合計	58,800	24,812	862	

(注4) 長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2018年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	8,499					
リース債務	671	626	563	490	406	318
合計	9,170	626	563	490	406	318

当連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	8,879					
リース債務	818	760	690	606	456	348
合計	9,697	760	690	606	456	348

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(2018年3月31日)

(単位:百万円)

区分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	3,954	2,655	1,298
その他	362	360	2
小計	4,316	3,015	1,301
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	367	518	150
債券	988	1,000	11
その他	1,727	1,767	40
小計	3,083	3,286	202
合計	7,400	6,301	1,098

(注)非上場株式等(連結貸借対照表計上額3,245百万円)については、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:百万円)

区分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	2,455	1,847	607
その他	1,012	996	16
小計	3,468	2,844	623
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	1,033	1,614	580
債券			
その他	1,085	1,126	40
小計	2,118	2,740	621
合計	5,587	5,584	2

(注)非上場株式等(連結貸借対照表計上額2,247百万円)については、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
その他	154	0	
合計	154	0	

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	1,340	147	27
その他	1,006	0	0
合計	2,346	147	27

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度(2018年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2019年3月31日)

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(2018年3月31日)

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
為替予約の 振当処理	為替予約取引	受取手形及び 売掛金			
	売建				
	米ドル		14,064		(注)
	ユーロ		13,612	5,640	(注)
	ウォン		1,667	156	(注)
合計			29,344	5,796	(注)

(注) 為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている受取手形及び売掛金と一体として処理されているため、その時価は受取手形及び売掛金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(2019年3月31日)

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
為替予約の 振当処理	為替予約取引	受取手形及び 売掛金			
	売建				
	米ドル		8,214	1,177	(注)
	ユーロ		11,551	4,420	(注)
	ウォン		1,341	51	(注)
	合計		21,108	5,649	(注)

(注) 為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている受取手形及び売掛金と一体として処理されているため、その時価は受取手形及び売掛金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社の一部は、従業員の退職給付に充てるため、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を採用しております。

確定給付企業年金制度（すべて積立型制度であります。）では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。

退職一時金制度では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

なお、国内連結子会社の一部が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度（簡便法を適用した制度を含んでおります。）

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付債務の期首残高	6,239	6,184
勤務費用	330	339
利息費用	61	60
数理計算上の差異の発生額	202	54
退職給付の支払額	244	385
退職給付債務の期末残高	6,184	6,144

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
年金資産の期首残高	6,095	6,416
期待運用収益	70	73
数理計算上の差異の発生額	95	17
事業主からの拠出額	331	339
退職給付の支払額	175	273
年金資産の期末残高	6,416	6,575

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	5,360	5,419
年金資産	6,416	6,575
	1,056	1,156
非積立型制度の退職給付債務	824	725
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	232	430
退職給付に係る負債	824	725
退職給付に係る資産	1,056	1,156
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	232	430

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
勤務費用	330	339
利息費用	61	60
期待運用収益	70	73
数理計算上の差異の費用処理額	7	85
過去勤務費用の費用処理額	0	0
確定給付制度に係る退職給付費用	314	241

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
過去勤務費用	0	0
数理計算上の差異	289	13
合計	290	12

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (2019年 3月 31日)
未認識過去勤務費用	1	0
未認識数理計算上の差異	618	604
合計	616	603

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (2019年 3月 31日)
国内債券	13%	13%
国内株式	7%	7%
外国債券	3%	2%
外国株式	5%	5%
保険資産（一般勘定）	69%	70%
その他	3%	3%
合計	100%	100%

(注) 年金資産合計には、企業年金制度に対して設定した退職給付信託が前連結会計年度 8 %、当連結会計年度 8 %含まれております。

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
割引率	1.00%	1.00%
長期期待運用収益率	1.15%	1.15%
予想昇給率	3.05%	2.15%

(ストック・オプション等関係)

1. 費用計上額及び科目名

	前連結会計年度	当連結会計年度
売上原価	百万円	百万円
販売費及び一般管理費	百万円	19百万円

2. 権利不行使による失効により利益として計上した金額

	前連結会計年度	当連結会計年度
新株予約権戻入益	41百万円	百万円

3. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

会社名	提出会社
決議年月日	取締役会 2018年7月25日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 5名 当社執行役員 3名
株式の種類及び付与数 (注)	普通株式 4,500株
付与日	2018年8月17日
権利確定条件	権利確定条件の定めはありません。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	2018年8月18日～2048年8月17日

(注) 株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(2019年3月31日)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

会社名	提出会社
決議年月日	取締役会 2018年7月25日
権利確定前	
前連結会計年度末	
付与	4,500株
失効	
権利確定	4,500株
未確定残	
権利確定後	
前連結会計年度末	
権利確定	4,500株
権利行使	
失効	
未行使残	4,500株

単価情報

会社名	提出会社
決議年月日	取締役会 2018年7月25日
権利行使価格	1円
行使時平均株価	
付与日における公正な評価単価	4,369円

4. 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

(1) 使用した評価技法 ブラック・ショールズモデル

(2) 主な基礎数値及びその見積方法

株価変動性 (注) 1	37.00%
予想残存期間 (注) 2	15年
予想配当 (注) 3	51円25銭
無リスク利率 (注) 4	0.36%

(注) 1 15年間(2003年8月18日から2018年8月17日まで)の株価実績に基づき算定しました。

2 十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積っております。

3 直近2期の1株当り実績配当金の平均値(ただし、記念配当を除く)によります。

4 予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

5. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
繰越欠損金	1,322百万円	1,425百万円
貸倒引当金	1,178百万円	923百万円
たな卸資産の未実現利益	702百万円	608百万円
賞与引当金	268百万円	349百万円
長期未払金	321百万円	303百万円
投資有価証券	274百万円	270百万円
減損損失	174百万円	146百万円
債務保証損失引当金	116百万円	104百万円
その他	896百万円	572百万円
繰延税金資産小計	5,254百万円	4,702百万円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)1		1,384百万円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額		1,512百万円
評価性引当額小計	3,284百万円	2,896百万円
繰延税金資産合計	1,970百万円	1,806百万円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	176百万円	
特別償却準備金	29百万円	19百万円
資産除去債務に対応する除去費用	5百万円	5百万円
その他	123百万円	186百万円
繰延税金負債合計	335百万円	210百万円
繰延税金資産純額	1,635百万円	1,595百万円

(注) 1 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

当連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)			42	14	67	1,300	1,425百万円
評価性引当額			42	14	67	1,259	1,384百万円
繰延税金資産						40	40百万円

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.69%	30.46%
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.41%	0.86%
受取配当金等永久に益金に 算入されない項目	0.06%	6.19%
試験研究費等の税額控除	2.61%	2.02%
税効果適用税率差異	3.46%	5.64%
評価性引当額の増減	2.80%	0.33%
のれん償却額	0.80%	2.41%
連結仕訳による影響	1.89%	3.52%
その他	0.26%	1.05%
税効果会計適用後の法人税等 の負担率	26.94%	24.78%

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

社有建物の解体時におけるアスベスト除去費用等につき資産除去債務を計上しております。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

支出発生までの見込期間を6～32年と見積り、割引率は0.485～2.301%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
期首残高	188百万円	190百万円
時の経過による調整額	1百万円	1百万円
期末残高	190百万円	192百万円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に営業本部を置き、取り扱う製品・サービスごとに包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社は製品・サービス別セグメントから構成されており、「横編機事業」、「デザインシステム関連事業」、「手袋靴下編機事業」の3つを報告セグメントとしております。

「横編機事業」は、コンピュータ横編機・セミジャカード横編機の製造販売をしております。「デザインシステム関連事業」は、コンピュータデザインシステム・アパレルCAD/CAMシステム等の製造販売をしております。

「手袋靴下編機事業」は、シームレス手袋・靴下編機の製造販売をしております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	横編機	デザイン システム 関連	手袋靴下 編機	計		
売上高						
外部顧客への売上高	59,369	3,936	2,373	65,679	6,179	71,858
セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	59,369	3,936	2,373	65,679	6,179	71,858
セグメント利益	19,423	1,165	475	21,064	105	21,169
セグメント資産	114,654	4,658	2,617	121,930	8,621	130,552
その他の項目						
減価償却費	1,450	42	49	1,542	156	1,699
のれんの償却額	385	3	0	388	15	404
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,492	81	68	2,642	158	2,800

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、編機・デザインシステム用部品事業、修理・保守事業等を含んでおります。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	横編機	デザイン システム 関連	手袋靴下 編機	計		
売上高						
外部顧客への売上高	38,806	4,380	1,555	44,742	6,609	51,352
セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	38,806	4,380	1,555	44,742	6,609	51,352
セグメント利益	8,767	944	237	9,949	999	10,948
セグメント資産	102,845	5,692	2,136	110,674	9,952	120,627
その他の項目						
減価償却費	1,398	64	58	1,521	185	1,707
のれんの償却額	384	3	0	387	15	403
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,723	136	132	2,992	349	3,341

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、編機・デザインシステム用部品事業、修理・保守事業等を含んでおります。

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	65,679	44,742
「その他」の区分の売上高	6,179	6,609
連結財務諸表の売上高	71,858	51,352

(単位：百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	21,064	9,949
「その他」の区分の利益	105	999
全社費用(注)	6,264	6,309
連結財務諸表の営業利益	14,905	4,638

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

(単位：百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	121,930	110,674
「その他」の区分の資産	8,621	9,952
全社資産(注)	23,785	24,518
連結財務諸表の資産合計	154,337	145,146

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない余資運用資金(現金預金)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等であります。

(単位：百万円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額(注)		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	1,542	1,521	156	185	405	487	2,104	2,194
のれんの償却額	388	387	15	15			404	403
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	2,642	2,992	158	349	1,199	1,141	3,999	4,483

(注) 減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る資産等であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	欧州	中東	アジア	その他	合計
7,212	9,052	4,356	48,516	2,720	71,858

(注) 1 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2 「アジア」に属する地域は、東アジア、南アジア、東南アジア、中央アジアであります。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	欧州	中東	アジア	その他	合計
8,603	8,959	3,227	28,810	1,751	51,352

(注) 1 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2 「アジア」に属する地域は、東アジア、南アジア、東南アジア、中央アジアであります。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	全社・消去	合計
	横編機	デザイン システム 関連	手袋靴下 編機	計			
減損損失					31		31

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、編機・デザインシステム用部品事業、修理・保守事業等を含んでおります。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	全社・消去	合計
	横編機	デザイン システム 関連	手袋靴下 編機	計			
当期末残高	3,093	25	1	3,120	126		3,246

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、編機・デザインシステム用部品事業、修理・保守事業等を含んでおります。

2 のれんの償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	全社・消去	合計
	横編機	デザイン システム 関連	手袋靴下 編機	計			
当期末残高	2,846	23	1	2,871	116		2,987

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、編機・デザインシステム用部品事業、修理・保守事業等を含んでおります。

2 のれんの償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア)連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

(イ)連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及び その近親 者が議決 権の過半 数を有し ている会 社等	和島興産(株)	和歌山県 和歌山市	80	不動産管理 賃貸業	被所有 直接 11.02%	不動産の賃借 当社グループ 製品の販売	建物の賃借	103	保証金	10
							ニット製品 の販売	16	売掛金	2

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 和島興産(株)は、当社代表取締役会長 島 正博および当社代表取締役社長 島 三博が議決権の100%を直接保有しております。
- 2 和島興産(株)は、当社の主要株主であります。
- 3 建物の賃借料については、不動産鑑定士の鑑定評価額に基づいて決定しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及び その近親 者が議決 権の過半 数を有し ている会 社等	和島興産(株)	和歌山県 和歌山市	80	不動産管理 賃貸業	被所有 直接 11.33%	不動産の賃借 当社グループ 製品の販売	建物の賃借	101	保証金	10
							ニット製品 の販売	13	売掛金	0

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 和島興産(株)は、当社代表取締役会長 島 正博および当社代表取締役社長 島 三博が議決権の100%を直接保有しております。
- 2 和島興産(株)は、当社の主要株主であります。
- 3 建物の賃借料については、不動産鑑定士の鑑定評価額に基づいて決定しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額(円)	3,381.85	3,411.08
1株当たり当期純利益(円)	316.82	105.62
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益(円)		105.54

- (注) 1. 前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません
2. 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	11,279	3,835
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	11,279	3,835
普通株式の期中平均株式数(千株)	35,601	36,311
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(千株)		27
(うち新株予約権(千株))	()	(27)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益の算定に含まれなかった潜在株式の概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	8,499	8,879	2.36	
1年以内に返済予定の長期借入金				
1年以内に返済予定のリース債務	671	818	0.56	
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	2,405	2,861	0.53	2020年～2026年
その他有利子負債				
合計	11,575	12,559		

- (注) 1 「平均利率」については、借入金等の期中平均残高に対する加重平均利率を記載しております。
2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
リース債務	760	690	606	456

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	16,923	28,197	40,620	51,352
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (百万円)	3,670	4,602	5,817	5,099
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	2,571	3,312	4,162	3,835
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	70.44	90.73	114.11	105.62

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益 (円)	70.44	20.29	23.33	9.14

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,194	18,378
受取手形	1, 3 28,360	1, 3 21,002
売掛金	1 22,363	1 18,008
製品	4,459	6,549
仕掛品	861	510
原材料及び貯蔵品	4,504	5,187
前払費用	105	168
その他	1 2,218	1 1,802
貸倒引当金	757	1,087
流動資産合計	81,310	70,520
固定資産		
有形固定資産		
建物	5,199	5,293
構築物	336	537
機械及び装置	926	1,145
車両運搬具	38	29
工具、器具及び備品	966	1,023
土地	10,571	11,246
リース資産	1,254	2,044
建設仮勘定	17	204
有形固定資産合計	19,311	21,526
無形固定資産		
ソフトウェア	265	299
その他	33	37
無形固定資産合計	299	336
投資その他の資産		
投資有価証券	9,697	7,055
関係会社株式	20,756	21,093
関係会社長期貸付金	1 2,982	1 3,847
長期前払費用	306	229
前払年金費用	535	683
繰延税金資産	580	1,242
その他	1 2,601	1 2,719
貸倒引当金	2,751	2,701
投資その他の資産合計	34,707	34,168
固定資産合計	54,318	56,032
資産合計	135,628	126,552

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1 5,104	1 2,006
電子記録債務	1,325	520
短期借入金	1 9,499	1 9,679
リース債務	308	478
未払金	1 3,165	1 2,491
未払費用	463	448
未払法人税等	2,161	98
前受金	152	77
預り金	426	253
前受収益	1 461	1 467
賞与引当金	745	1,015
債務保証損失引当金	381	342
流動負債合計	24,195	17,879
固定負債		
長期未払金	1,025	971
リース債務	1,058	1,747
再評価に係る繰延税金負債	23	23
資産除去債務	190	192
退職給付引当金	856	800
その他	290	193
固定負債合計	3,444	3,927
負債合計	27,640	21,806

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,859	14,859
資本剰余金		
資本準備金	21,724	21,724
その他資本剰余金	4,143	4,143
資本剰余金合計	25,867	25,867
利益剰余金		
利益準備金	2,124	2,124
その他利益剰余金		
研究開発積立金	12,839	12,839
特別償却準備金	5	17
固定資産圧縮積立金	49	46
別途積立金	38,222	38,222
繰越利益剰余金	20,447	21,358
利益剰余金合計	73,688	74,608
自己株式	258	3,743
株主資本合計	114,157	111,592
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	834	137
土地再評価差額金	7,003	7,003
評価・換算差額等合計	6,169	6,866
新株予約権	-	19
純資産合計	107,988	104,745
負債純資産合計	135,628	126,552

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
売上高	1 61,038	1 39,352
売上原価	1 37,212	1 25,465
売上総利益	23,825	13,887
販売費及び一般管理費	1, 2 12,969	1, 2 12,180
営業利益	10,856	1,706
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	1 1,092	1 852
受取賃貸料	1 277	1 292
その他	1 479	1 354
営業外収益合計	1,849	1,500
営業外費用		
支払利息	1 164	1 230
為替差損	620	141
貸倒引当金繰入額	759	119
その他	1 725	1 480
営業外費用合計	2,270	972
経常利益	10,435	2,233
特別利益		
投資有価証券売却益	-	147
抱合せ株式消滅差益	-	997
新株予約権戻入益	41	-
特別利益合計	41	1,144
特別損失		
固定資産除売却損	3 10	3 11
投資有価証券売却損	-	27
代理店解約損	82	31
特別損失合計	92	71
税引前当期純利益	10,383	3,307
法人税、住民税及び事業税	2,822	467
法人税等調整額	66	432
法人税等合計	2,888	34
当期純利益	7,495	3,272

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	
						研究開発積立金	特別償却準備金
当期首残高	14,859	21,724		21,724	2,124	12,839	11
当期変動額							
特別償却準備金の取崩							5
剰余金の配当							
当期純利益							
自己株式の取得							
自己株式の処分			4,143	4,143			
固定資産圧縮積立金の積立							
固定資産圧縮積立金の取崩							
合併による増加							
株主資本以外の項目の当期 変動額(純額)							
当期変動額合計			4,143	4,143			5
当期末残高	14,859	21,724	4,143	25,867	2,124	12,839	5

(単位：百万円)

	株主資本					
	利益剰余金				自己株式	株主資本合計
	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
	固定資産圧縮 積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	58	38,222	14,717	67,974	6,140	98,417
当期変動額						
特別償却準備金の取崩			5			
剰余金の配当			1,774	1,774		1,774
当期純利益			7,495	7,495		7,495
自己株式の取得					8	8
自己株式の処分			5	5	5,890	10,028
固定資産圧縮積立金の積立						
固定資産圧縮積立金の取崩	9		9			
合併による増加						
株主資本以外の項目の当期 変動額(純額)						
当期変動額合計	9		5,730	5,714	5,882	15,740
当期末残高	49	38,222	20,447	73,688	258	114,157

(単位：百万円)

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算差額 等合計		
当期首残高	830	7,003	6,173	55	92,300
当期変動額					
特別償却準備金の取崩					
剰余金の配当					1,774
当期純利益					7,495
自己株式の取得					8
自己株式の処分					10,028
固定資産圧縮積立金の積立					
固定資産圧縮積立金の取崩					
合併による増加					
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）	4		4	55	51
当期変動額合計	4		4	55	15,688
当期末残高	834	7,003	6,169		107,988

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	
					研究開発積立金	特別償却準備金	
当期首残高	14,859	21,724	4,143	25,867	2,124	12,839	5
当期変動額							
特別償却準備金の取崩							9
剰余金の配当							
当期純利益							
自己株式の取得							
自己株式の処分							
固定資産圧縮積立金の積立							
固定資産圧縮積立金の取崩							
合併による増加							20
株主資本以外の項目の当期 変動額(純額)							
当期変動額合計							11
当期末残高	14,859	21,724	4,143	25,867	2,124	12,839	17

(単位：百万円)

	株主資本					
	利益剰余金				自己株式	株主資本合計
	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
	固定資産圧縮 積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	49	38,222	20,447	73,688	258	114,157
当期変動額						
特別償却準備金の取崩			9			
剰余金の配当			2,373	2,373		2,373
当期純利益			3,272	3,272		3,272
自己株式の取得					3,485	3,485
自己株式の処分						
固定資産圧縮積立金の積立	5		5			
固定資産圧縮積立金の取崩	8		8			
合併による増加				20		20
株主資本以外の項目の当期 変動額(純額)						
当期変動額合計	2		910	919	3,485	2,565
当期末残高	46	38,222	21,358	74,608	3,743	111,592

(単位：百万円)

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算差額 等合計		
当期首残高	834	7,003	6,169		107,988
当期変動額					
特別償却準備金の取崩					
剰余金の配当					2,373
当期純利益					3,272
自己株式の取得					3,485
自己株式の処分					
固定資産圧縮積立金の積立					
固定資産圧縮積立金の取崩					
合併による増加					20
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）	697		697	19	677
当期変動額合計	697		697	19	3,242
当期末残高	137	7,003	6,866	19	104,745

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)を採用しております。

子会社株式

総平均法に基づく原価法を採用しております。

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

総平均法に基づく原価法を採用しております。

(2) デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

(3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

製品・原材料及び仕掛品

移動平均法を採用しております。

貯蔵品

先入先出法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。

建物及び構築物	3～60年
機械装置及び車両運搬具	2～12年
工具器具備品	2～20年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(3～5年)に基づいております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 債務保証損失引当金

当社製品を購入した顧客のリース会社及び提携金融機関に対する債務保証に係る損失に備えるため、発生可能性を個別に検討して算定した損失見込額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

4. ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、先物為替予約については振当処理を、金利スワップについては特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

1. ヘッジ手段

先物為替予約取引

2. ヘッジ対象

外貨建金銭債権

ヘッジ方針

社内規程に基づき、外貨建取引における為替変動リスク及び借入金の金利変動リスクをヘッジしております。取組時は、実需の範囲で行うことを原則とし、投機目的のための取引は行わない方針であります。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象における通貨・期日等の重要な条件が同一であり、その後の為替相場及び金利相場の変動による相関関係は確保されているため、有効性の評価を省略しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」506百万円は「投資その他の資産」の「繰延税金資産」580百万円に含めて表示しております。

(追加情報)

(賞与引当金の支給対象期間の改定)

賞与引当金の支給対象期間を以下のように改定いたしました。

冬季賞与：5月21日～11月20日から4月1日～9月30日

夏季賞与：11月21日～5月20日から10月1日～3月31日

業績配当：2月21日～2月20日から4月1日～3月31日

この結果、従来と同一の支給対象期間によった場合と比較して賞与引当金残高が2億72百万円増加し、営業利益、経常利益および税引前当期純利益は2億39百万円減少しております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
短期金銭債権	20,537百万円	15,989百万円
長期金銭債権	3,565百万円	4,480百万円
短期金銭債務	4,378百万円	2,498百万円

2 保証債務

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
銀行取引債務に関する保証	29百万円	28百万円
取引先の機械購入資金ローン (所有権留保付)に関する保証	573百万円	383百万円
リース債務に関する保証	187百万円	139百万円
売上債権流動化に伴う遡及義務	391百万円	178百万円
計	1,182百万円	730百万円

3 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
受取手形	15百万円	26百万円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高	35,515百万円	22,894百万円
仕入高	6,200百万円	4,018百万円
営業外取引高	1,722百万円	1,218百万円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
販売手数料	1,352百万円	562百万円
運賃及び荷造費	1,466百万円	1,013百万円
貸倒引当金繰入額	百万円	231百万円
給料及び手当	1,701百万円	1,754百万円
賞与引当金繰入額	220百万円	274百万円
退職給付費用	65百万円	46百万円
減価償却費	359百万円	414百万円
研究開発費	2,794百万円	3,250百万円
おおよその割合		
販売費	77%	79%
一般管理費	23%	21%

3 固定資産除売却損の内訳は次の通りであります。

(売却損)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
土地	5百万円	百万円
機械及び装置	0百万円	1百万円
工具、器具及び備品	1百万円	百万円
計	7百万円	1百万円

(除却損)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物	百万円	1百万円
機械及び装置	0百万円	2百万円
車両運搬具	0百万円	0百万円
工具、器具及び備品	2百万円	6百万円
計	2百万円	10百万円

(有価証券関係)

子会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は21,093百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は20,756百万円)は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
関係会社株式評価損	1,918百万円	1,918百万円
貸倒引当金	1,057百万円	1,141百万円
賞与引当金	227百万円	309百万円
長期未払金	312百万円	295百万円
投資有価証券	259百万円	255百万円
債務保証損失引当金	116百万円	104百万円
減損損失	109百万円	103百万円
その他	396百万円	297百万円
繰延税金資産小計	4,396百万円	4,427百万円
評価性引当額	3,620百万円	3,150百万円
繰延税金資産合計	776百万円	1,277百万円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	165百万円	
固定資産圧縮積立金	21百万円	20百万円
特別償却準備金	2百万円	8百万円
その他	6百万円	6百万円
繰延税金負債合計	196百万円	34百万円
繰延税金資産の純額	580百万円	1,242百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	30.69%	30.46%
(調整)		
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.45%	1.04%
受取配当金等永久に益金に 算入されない項目	1.50%	13.43%
試験研究費等の税額控除	3.79%	3.11%
住民税均等割等	0.15%	0.49%
評価性引当額の増減	1.92%	14.19%
その他	0.10%	0.21%
税効果会計適用後の法人税等 の負担率	27.82%	1.05%

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

(1)取引の概要

結合当事企業の名称及び事業の内容

吸収合併存続会社

名称 株式会社島精機製作所

事業内容 繊維機械等の製造及び販売

吸収合併消滅会社

名称 ティーエスエム工業株式会社

事業内容 当社製品の部品加工等

企業結合日

2018年10月1日

企業結合の法的形式

当社を存続会社とする吸収合併方式で、ティーエスエム工業株式会社は解散しました。

結合後企業の名称

株式会社島精機製作所

その他取引の概要に関する事項

当社とティーエスエム工業株式会社の生産および管理体制を一元化することにより、当社グループの生産性向上および経営効率化を図り、当社事業の継続的な安定成長を目指すことを目的として、吸収合併することとしました。

(2)実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理をしています。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形固定資産	建物	20,422	870	23	379	21,269	15,976
	構築物	2,830	300		49	3,131	2,593
	機械及び装置	3,063	616	115	258	3,564	2,419
	車両運搬具	148	12	5	13	156	126
	工具、器具 及び備品	6,776	548	228	426	7,095	6,072
	土地	10,571 [6,979]	674			11,246 [6,979]	
	リース資産	2,944	1,280		378	4,225	2,180
	建設仮勘定	17	787	600		204	
	計	46,776	5,091	973	1,506	50,894	29,368
無形固定資産	施設利用権				1	22	18
	ソフトウェア				93	506	207
	その他				0	33	0
	計				94	563	226

- (注) 1 無形固定資産については、重要性がないため「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。
- 2 当期増加額にはティーエスエム工業株式会社を吸収合併したことによる増加分が含まれております。この増加分の資産種類ごとの内訳は建物495百万円、構築物69百万円、機械装置196百万円、車両運搬具10百万円、工具器具及び備品67百万円、土地429百万円、リース資産331百万円及び建設仮勘定2百万円であります。
- 3 土地の「当期首残高」及び「当期末残高」の[]は内数で、土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）により行った事業用土地の再評価実施前の帳簿価額との差額であります。
- 4 「当期首残高」及び「当期末残高」は取得価額により記載しています。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	3,508	853	573	3,789
賞与引当金	745	1,015	745	1,015
債務保証損失引当金	381	9	48	342

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取・買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html
株主に対する特典	3月31日及び9月30日現在100株以上保有の株主に対して特別企画品を進呈いたします。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類 並びに確認書	事業年度 (第57期)	自 2017年4月1日 至 2018年3月31日	2018年6月28日 関東財務局長に提出。
(2) 内部統制報告書 及びその添付書類			2018年6月28日 関東財務局長に提出。
(3) 四半期報告書及び 確認書	(第58期第1四半期)	自 2018年4月1日 至 2018年6月30日	2018年8月10日 関東財務局長に提出。
	(第58期第2四半期)	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	2018年11月14日 関東財務局長に提出。
	(第58期第3四半期)	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	2019年2月14日 関東財務局長に提出。
(4) 臨時報告書	金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書		2018年6月29日 関東財務局長に提出。
(5) 自己株券買付状況報告書	金融商品取引法第24条の6第1項に基づく自己株券買付状況報告書		2018年12月12日 関東財務局長に提出。
"	"		2019年1月10日 関東財務局長に提出。
"	"		2019年2月12日 関東財務局長に提出。
"	"		2019年3月12日 関東財務局長に提出。
"	"		2019年4月12日 関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年 6月27日

株式会社島精機製作所
取締役会 御中

大 手 前 監 査 法 人

指定社員 公認会計士 栢 矢 晋
業務執行社員

指定社員 公認会計士 木 梨 讓
業務執行社員

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社島精機製作所の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社島精機製作所及び連結子会社の2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社島精機製作所の2019年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社島精機製作所が2019年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年6月27日

株式会社島精機製作所
取締役会 御中

大 手 前 監 査 法 人

指定社員 公認会計士 栢 矢 晋
業務執行社員

指定社員 公認会計士 木 梨 讓
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社島精機製作所の2018年4月1日から2019年3月31日までの第58期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社島精機製作所の2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。